

会 務 報 告

(平成 18 年 8 月～平成 19 年 7 月)

◇若手病理医育成のためのワークショップ: 企画委員会・病理専門医制度運営委員会・教育委員会合同のワークショップが、平成 18 年 8 月 20 日(日)、日本医科大学(東京都)にて「魅力ある病理学を若人にどう伝えるか」のテーマのもと開催され、38 名が参加した。

◇技術講習会—分子病理学の基礎技術 6—: 安井 弥教授(広島大学)のもとで、平成 18 年 11 月 22 日(水)、和歌山ダイワロイネットホテルにて実施され、35 名が受講した。講義は佐々木博己(国立がんセンター)、大上直秀(広島大学)、宮本和明(呉医療センター)、阿部康人(愛媛大学)、梶村春彦(浜松医科大学)の各氏が担当した。

◆第 52 回秋期特別総会(平成 18 年度): 和歌山県立医科大学を世話機関として覚道健一、村垣泰光両世話人のもとで、平成 18 年 11 月 23 日(木)～24 日(金)の 2 日間、和歌山ダイワロイネットホテルにて開催された。特別講演 3 題、学術研究賞演説(A 演説)8 題、B 演説 2 題、シンポジウム 2 件 8 題、病理診断シリーズ 2 題、モーニングレクチュア 4 件、ナイトセッション 2 件、ワークショップ 2 件 5 題、症例から学ぶ鑑別シリーズ 1 件 6 題の発表と討論が行われた。「病理医に聞こう!正しい診断」の市民公開講座および、会期の前後には技術講習会、IAP 病理学教育シンポジウム・スライドセミナーなどが開かれた。

A 演説 (8 題)

- (1) 清水 章(日本医科大学解析人体病理学): 慢性糸球体腎炎の遷延と毛細血管網の修復不全、および、その積極的な治療
- (2) 範 江林(山梨大学大学院医学工学総合研究部・分子病理学講座): 遺伝子改変ウサギモデルによる動脈硬化の分子病態の解明及びトランスレーショナルリサーチへの試み
- (3) 梁 明秀(横浜市立大学医学部分子病理学教室): ペプチジルプロリルイソメラーゼ Pin1 の分子病理学
- (4) 竹内 保(高知大学医学部病理学教室): Notch リガンドのユビキチン連結酵素異常がもたらす腫瘍形成、進行の分子病理
- (5) 進藤 正信(北海道大学大学院歯学研究科口腔病理病態学教室): アデノウイルスがん遺伝子と細胞がん化機構—Ets ファミリー転写因子 E1AF と E 4orf6 の役割
- (6) 西川 祐司(秋田大学医学部病理病態医学講座): 三次元長期培養系を用いた肝細胞の胆管上皮化生の研究
- (7) 中村 光利(奈良県立医科大学病理病態学講座): 脳腫瘍の病理診断における遺伝子解析の有用性
- (8) 梅村しのぶ(東海大学医学部基盤診療学系病理診断学領域): Estrogen receptor α 陰性/Human epidermal

growth factor receptor-2 陰性乳癌の細胞増殖分化の特性

B 演説 (2 題)

- (1) 永井雄一郎(千葉大学大学院医学研究院病態病理学): 新しい卵巣非ブレンナー性低悪性度扁平上皮系腫瘍の提唱
- (2) 小無田美菜(久留米大学病理学教室) 他: 肝前駆細胞(Hepatic progenitor cell)と肝癌組織発生について; 胆管細胞癌の検討から

シンポジウム (2 件 8 題)

—ダイナミックな疾患モデル—

- (1) 石井直明(東海大学医学部基礎医学系分子生命科学): ミトコンドリアから発生する活性酸素を起因とする老年性疾患・生活習慣病モデル動物
- (2) 城石俊彦(理化学研究所 GSC/国立遺伝学研究所): マウスモデルによるゲノム機能解析
- (3) 梅澤明弘(国立成育医療センター研究所生殖医療研究部): 再生医療の細胞リソース—小児軟骨・胎盤・臍帯血・子宮内膜・月経血—
—情報化社会と病理学—
- (1) 伊藤智雄(北海道大学病院病理部): 病理診断入力におけるインターフェースの進歩
- (2) 渡辺みか(東北大学病院病理部): 遠隔病理診断(テレパソロジー); IT 技術の発達に伴う新技術と期待される今後の展開
- (3) 羽賀博典(京都大学医学部附属病院臓器移植医療部): 電子カルテにおける診断病理部門の役割
- (4) 黒田雅彦(東京医科大学病理学講座): バイオインフォマティクスと機能性 RNA
- (5) 古川洋一(東京大学医科学研究所研究拠点形成・ゲノム医療プロジェクト推進): 遺伝子発現解析の臨床応用

病理診断シリーズ (2 題)

シリーズ 31 円山英昭(近森病院病理部): 肝生検組織の病理診断—特に非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)について

シリーズ 32 佐野壽昭(徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部人体病理学): 下垂体腺腫; 機能性内分泌腫瘍の診断病理学

○今後予定されている総会は、以下のとおりである。

- 1) 第 96 回(平成 19 年度)総会
世話機関: 大阪大学
会 長: 青笹克之教授
会 期: 平成 19 年 3 月 13 日(火)～15 日(木)

会 場：大阪国際会議場

- 2) 第53回(平成19年度)秋期特別総会
世話機関：東京医科大学
会 長：向井 清教授
会 期：平成19年12月6日～7日
会 場：江戸川区民ホール(タワーホール船堀)
- 3) 第97回(平成20年度)総会
世話機関：金沢大学
会 長：中沼安二教授
会 期：平成20年5月15日～17日
会 場：石川県立音楽堂他
- 4) 第54回(平成20年度)秋期特別総会
世話機関：愛媛大学
会 長：植田規史教授
会期および会場：未定
- 5) 第98回(平成21年度)総会
世話機関：京都大学
会 長：真鍋俊明
会期および会場：未定

◇上記特別総会に関連して開催された理事会および総会について：平成18年11月22日(第52回秋期特別総会の前日)にダイワロイネットホテル和歌山にて理事会を、11月23日には同所にて総会を開催した。これらの理事会、総会では、理事長報告、各種委員会委員長報告を行った。

協議事項としては、総会では、19年度事業計画並びに収支予算、第54回(平成20年度)秋期特別総会世話人および第98回(平成21年度)総会会長について協議し、それぞれ原案のとおり決定した。

理事会では、第97回(平成20年度)総会宿題報告担当者、平成19年度秋期学術集会シンポジウム演題、病理診断シリーズの講演者、第7回(平成19年度)海外病理学者・研究者の招聘、第6回(平成18年度前期)海外病理学会参加支援者、平成18年度上期新入会員、宿題報告を「日本病理学賞」とする件、秋期特別総会の「世話人」を「会長」と呼称変更する件をそれぞれ協議して決定した。

また、名誉会員の有資格者名簿を整理・確認し、推戴に向けて作業を始めた。

◇理事会：平成18年11月22日(水)の理事会には、長村義之、真鍋俊明、岡田保典、黒田 誠、深山正久、青笹克之、林 良夫、樋野興夫、井内康輝、中島 孝、中沼安二、根本則道、小川勝洋、坂本穆彦、笹野公伸、澤井高志、居石克夫、恒吉正澄、堤 寛(以上理事)、松原 修(監事)、覚道健一、村垣泰光(以上第52回秋期特別総会世話人)、大藪いづみ、菊川敦子(以上事務局)が出席し、長村理事長の司会により議事を進めた。議事録に署名する出席者代表に中島 孝、小川勝洋両理事が指名された。

○報告事項

1. 理事長報告

(1) 学生・研修医向けのパンフレットを作成し、各大学および認定施設に配布するとともに学生・研修医向けのセミナーで配布した。また、病理学会ホームページにも掲載して、各施設でダウンロードできるようにした。

(2) 3回の学生研修医向けセミナーに参加し、パネル展示やパンフレットの配布を行った。

6月4日の研修医向けのセミナー(パシフィコ横浜)、7月16日の学生向け(東京ビッグサイト)8月6日の研修医向けのセミナー(マイドームおおさか)6月、7月に参加した笹島ゆう子学術評議員より報告書が提出された。その際指摘された、認定施設の研修受け入れ可否と病院ホームページへのリンクについては、病理専門医制度運営委員会でアンケートを行い、その結果を病理学会ホームページへ掲載した。

(3) 8月20日に、「若手病理医育成のためのワークショップ」を、企画委員会・教育委員会・病理専門医制度運営委員会3者担当で開催した。スタッフを入れて45名が参加し、5つのグループに分かれてテーマ別に意見交換を行った。総合討論の結果も踏まえて報告書を日本医大田村浩一委員がまとめた。このワークショップには例年どおり30万円を補助金として支出し、収支決算の報告の提出を求め今後の事業予算に生かすことにする。

(4) 教育委員会から提案された「学生ポスターに関するアンケート」は、本年度総会の企画であったことから、当該学会の坂本穆彦会長に依頼し、結果は8月20日のワークショップで発表された。

(5) 外部団体への各種委員につき次のとおり交代した。
内保連委員 長村義之から根本則道(両理事)へ、斉藤澄から稲山嘉明(両学術評議員)

外保連委員 保連検査委員会：長村理事長から根本理事実務委員会 斉藤 澄学術評議員から稲山嘉明学術評議員

日本医学会 評議員：長村義之 連絡委員：岡田保典
用語委員：坂本穆彦(継続)

また、日本産科婦人科学会婦人科腫瘍委員会より依頼のあった「卵巣腫瘍取扱い規約改訂」の病理側委員として、次の3名の会員を推薦することとした。坂本穆彦(杏林大学) 手島伸一(同愛記念院) 本山悌一(山形大学)である。

(6) 病理医のリクルートについて、企画委員会に検討を依頼した。

(7) 6月12日に厚生労働省がん対策推進室の「がん拠点病院」に関するヒアリングを受け、長村理事長が病理学会の専門医について概略を説明した。

(8) 7月4日より7日までマンチェスターにて開催された第100回英国病理学会には、青笹、長村、坂本、笹野の4名

- の理事が参加し、合同シンポジウムを行った。
- (9) プログラム推進委員会の委員について協議し、岡田保典、黒田 誠、深山正久、青笹克之、清水道生、梅村しのぶ、村田哲也の7名の会員が岡田理事より推薦されたので、了承した。
- (10) 会報7月号に春期会長および秋期世話人の募集記事を掲載するにあたっては、応募要領に「日本病理学会学術集会改革案(平成18年5月1日決定)」の趣旨を踏まえて、と追加することとした。実際の応募用紙は常任理事会とプログラム推進委員会で作成した。
- (11) 平成19年度の病理学会カンファレンスの世話人を、旭川医大の小川勝洋理事に依頼する旨が研究推進委員会委員長の樋野興夫理事から提案されたので、これを了承した。
- (12) 「学術集会の改革案」より病理専門医制度運営委員会へ諮問のあった秋期特別総会の参加単位数は、20単位とすることが了承された。
- (13) 病理診断講習会委員会については、病理専門医制度運営委員会の実務委員会と位置づけることとした。平成18年度委員は、清水道生(委員長)、森谷卓也、および7支部から各1名の計9名の会員である。
- (14) 平成19年の細胞診断講習会の世話人を本年と同様に慈恵医大の羽野 寛教授に依頼した。平成19年3月3日・4日に開催される。受験申請時には、受講が修了していることを来年は義務付けることにした。これについては、病理専門医制度運営委員長の黒田理事より説明がある。
- (15) 病理専門医研修指導医証の発行手数料を2,000円とし、対象者に文書で通知した。手数料納入者には、指導医証が発行された。
- (16) 医療関連死関係専門委員会については、既に黒田 誠委員長他5名の委員が決定されているが、これに深山正久理事も加わるようになった。
- (17) 長村義之理事長がドイツ病理学会会長 Prof. Kirchner と面談し、今後のドイツ病理学会との交流について協議した。
- (18) プログラム推進委員会においては、学術集会の会長および世話人の応募用紙について、持ち回り委員会にて改訂を行った。
- (19) 日本臨床衛生検査技師会との会合が7月10日にもたれた(病理学会側出席者 長村理事長 黒田理事 根本理事)。両会で、病理系臨床検査技師の認定についての覚え書きを双方で確認した。この会合ではPA制度の導入については今まで話題に上ったことがないことを確認した。今後も継続して話し合の場を持つことにし、黒田病理専門医部会長および根本医療業務委員長が担当することにした。また、「技師会との関係小委員会(仮称)」を理事長直轄の委員会として設置する方向である。
- (20) 7月10日行われた病理診断体制専門委員会の活動について水口委員長より議事録が提出された。標榜科および「病理診断施設」については、厚生労働省はじめ関係団体と交渉していくことが確認されている。
- (21) ドイツへの交換留学・派遣では、本年度は、昭和大学の塩沢英輔会員が9月から渡独し、ドイツ病理学会より2万ユーロを受け取った。2007年のドイツ病理学会への招聘演者派遣については、岡田理事が参加することになっており、ドイツからは大阪での総会に1名特別講演として参加がある。これに関しては2,000ユーロと3泊分を海外招聘事業から支出することにした。
- (22) 病理教材の共有化は中島孝理事が教育委員会の事業として、学生を対象とした病理各論コア画像のホームページ化を進めており、大方が出来上がっている。
- (23) 厚生労働省医政局経済課の中谷祐貴子課長補佐との勉強会を9月8日に開催し、病理診断体制専門委員会および社会保険小委員会のそれぞれの委員長(水口國雄・稲山嘉明両学術評議員)が、病理学会としての優先要望事項をまとめ、それをもとに中谷課長補佐より意見を伺った。
- (24) 坂本穆彦理事から、医学会用語委員会に出席した際の報告書が提出された。「日本医学会医学用語辞典 英和 第3版」の改訂につき、英語に対する訳語の検討を、坂本理事および用語代委員の森永正二郎学術評議員で担当する。
- (25) 日本医学会より、「日本医学会における今後の検討事項について」アンケート調査がきており、病理学会としては「医療関連死における諸問題」「医療の質と安全について」を回答した。
- (26) 本年度病理専門医試験は65名の受験者のうち、合格者は49名(合格率75.4%)であった。
- (27) 医療関連死関係専門委員会の黒田理事より、現状について説明があった。東京の場合15例中3例が報告書の作成が終わっているとのことである。
- (28) 病理医適正配置の今後の方針としては、医療業務委員会と支部委員会とが連携してアンケート調査を行うことになっている。
- (29) 倫理委員会委員増員について井藤久雄委員長より提案のあった、伊藤雅文、本山悌一、長嶋洋治以上3名の学術評議員の増員を承認した。
- (30) 10月18日に厚生労働省医療課の中野課長補佐と面談した。長村理事長、根本医療業務委員長、水口病理診断体制専門委員長および稲山社会保険小委員会委員長が参加した。課長も担当課長補佐も移動となったので、いままでの経過の説明と病理学会の最重要要望を行った。「病理診断を別部門に」を中心に要望書を提出した。
- (31) 「病理医についての広報活動」の強化について、現在のホームページをさらに効果的な活用するために、広報委員会で検討するよう依頼することにした。
- (32) 酢酸ウランの利用と管理については、現状通り使用できることになっている。

- (33) 若手医師確保に関する小委員会の委員構成については深山企画委員長より提案のあった次の10名の学術評議員を承認した。大橋健一(委員長), 長嶋洋治, 笹島ゆう子, 茅野秀一, 北川昌伸, 田村浩一, 鈴木 貴, 鬼島 宏, 羽場礼次, 谷山清己
- (34) 細胞診講習会の受講料について50名の受講を想定して, 33,000円(現行22,000円)とすることにした。講習会では, できれば法的知識についても併せて講義をしたい。
- (35) 剖検輯報のあり方について, 倫理委員会に諮ることにした。
- (36) 「診断病理」の現編集長が来年3月末で任期満了のため, 11月号会報にて公募する。
2. 各種委員会委員長報告
- (1) 企画委員会(深山正久委員長)
- ① 8月20日に教育委員会・企画委員会・病理専門医制度運営委員会の担当でワークショップを開催した。「若手病理医育成のためのワークショップ」のテーマに従い, 5グループに分かれて意見交換を行った。このワークショップのプロダクトは提言として, 長村理事長に上程した。これらを踏まえて「若手医師確保のための小委員会」を立ち上げた。メンバーは大橋健一委員長のほかワークショップ参加者が中心である。
- ② 臨床医学との対話を目指して「診断病理サマーフェスト」を平成19年8月11日(土)12日(日)に東大にて開催する予定である(小委員長 真鍋俊明理事)。日本医学放射線学会および日本産科婦人科学会に後援を依頼し, 250名~300名の参加を見込んでいる。支部のセミナーに抵触しないようにしたいので支部長の意見を伺っているところである。
- (2) 広報委員会(坂本穆彦委員長)
- 委員会は実働委員と理事委員で構成されている。ホームページ作成については, 委員だけでなく, 外部(プロ)の力を借りてブラッシュアップしてはどうかの意見が出された。内容は, 会員向けだけでなく学生・研究者・国民向けのページを作成する必要がある。掲載希望の記事があれば提案してほしい。
- 物故者の追悼文を日本病理学会会誌でなくホームページに掲載することになっているが, そのページの構成については, 次回委員会までに作成することにしている。
- (3) 学術委員会(岡田保典委員長)
- ① 97回総会宿題報告担当者, 第53回秋期特別総会のシンポジウムおよび診断シリーズの担当者・課題を選出した。協議事項で諮る。
- ② 宿題報告の顕彰について審議し, 「日本病理学賞」とすることを提案する。
- ③ 病理診断シリーズについては, これまでは学術委員の推薦のみであったが, 今後は, 病理診断講習会委員会委員長および支部長からの推薦も受けることとした。その際の病理診断シリーズの趣旨は申し合わせ事項として次の通りとした「診断シリーズ講演は, 特定の疾患や臓器における病理診断に関して, それを専門として卓越した経験と見識をもつ本学会員が担当し, 担当疾患の病理診断に関して主として解説的に講演する。」
- ④ プログラム推進委員会の役割は, 春・秋の会長・世話人の応募用紙の審査, 春期総会時の病理診断講習会のアレンジ, IAPとの整合性などについての審議を行うことである。
- (4) 研究推進委員会(樋野興夫委員長)
- ① 第4回(平成19年度)日本病理学会カンファレンスは, 平成19年7月27日・28日に旭川にて開催される。テーマは「肝臓疾患の現状と課題(仮題)」である。本企画スタートにあたって5年目で見直しを行うことになっている。
- ② 技術講習会は, 今回第6回目の開催(受講者35名)であり, 第4回からは実習ではなく講演のみとなっている。技術講習会については来年の開催は決定しているが, 以降については見直しを行う。継続する・中止する・秋の病理学会前日でなく春の総会中に会長主導または研究推進委員会で開催する・病理学会カンファレンスとドッキングして開催する, などの案が出ている。次回理事会までには決定したい。
- (5) 編集委員会(恒吉正澄委員長)
- ① Pathology Internationalの論文は順調に投稿されている。採択率を現在の40%から60%くらいに上げたい。インパクトファクターが2005年は1.0を下回った。Pathology Internationalのアーカイブスをデジタル化することをBlackwell社から提案されたので, これを了承した。投稿料5,000円を徴収しているが, これを検討することによって, 投稿が増えることも期待される。
- ② 剖検輯報第48輯のデータを収集中である。第46輯から第47輯の際は約2,000体減少したが, 第48輯では横ばい状態である。
- ③ 診断病理は, 来年4月から編集長が交代する。
- (6) 病理専門医制度運営委員会(黒田 誠委員長)
- ① 大学病院も新規に認定施設として申請を受付, 80大学すべてが認定施設Aとして認定された。分院は, 認定施設あるいは登録施設として申請され, 申請施設はすべて認定された。
- ② 平成19年度の病理専門医試験は7月28日(土)29日(日)に東京医科歯科大学にて行われる。受験申請は4月30日であるが, それまでには, 死体解剖資格取得および細胞診講習会の受講は必ず揃えておかなければ, 受験資格を与えない。
- ③ 平成19年度より新制度の後期研修が始まる。それに

伴って、研修手帳の導入も始まる。現在公開中の研修手帳については、東北大学の森谷学術評議員がシミュレーションを行い、その体験を「病理専門医部会報」に執筆している。

- ④ 平成 18 年度から、大学病院も認定施設として申請を行った。
- (7) 医療業務委員会（根本則道委員長）
小委員会を中心に以下のとおり報告された。
- ① 社会保険小委員会
次回の診療報酬改定では、「病理診断」を検査から出して第 4 部の新設を最重要要求項目とする。病理診断の完全出来高払いおよびドクターズフィー重視の要求も引き続き行う。
- ② 病理診断体制専門委員会
標榜科については 3 つの選択肢があり、そのうち、病院の機能表示としての「病理診断部」の標榜が、一番現実的ではないかということで、委員会としてはこの方向を目指す。
- ③ 癌取扱い規約小委員会
「食道がん取扱い規約」は改訂の準備中である。「卵巣腫瘍取扱い規約」は改訂を検討中である。各規約の用語の統一については、著作権の問題等があり、調整が必要である。
- ④ 剖検・病理技術小委員会
病理医の適正配置については、今後支部委員会と連携して業務量の調査をし、さらに検討していく。
- ⑤ 精度管理小委員会
精度管理の報告書のガイドライン作成を検討中である。
- (8) 口腔病理専門医制度運営委員会（林 良夫委員長）
- ① 口腔病理専門医試験を 7 名が受験し、4 名が合格した。
- ② 平成 19 年度の試験実施委員を決定した。
- ③ 口腔病理専門医の広告ができるようにすることについては、進んでいない。
- (9) 教育委員会（堤 寛委員長）
- ① 8 月 20 日のワークショップに参加した。
- ② 来夏、ワークショップを開催する方向で検討している。
- ③ 病理画像の共有化ホームページは間もなく、病理学会ホームページに掲載されることになった。
- ④ 研修医・学生対象のレジナビフェアへの参加は、顔の見える病理医のアピールに有効である。
- (10) 国際交流委員会（笹野公伸委員長）
平成 19 年度海外病理学者・研究者の招聘事業および平成 18 年度（前期）海外病理学会参加支援事業について、それぞれ候補者を選出した。協議事項で諮る。
- (11) 支部委員会（小川勝洋委員長）
- ① PA に関するアンケート（支部対象）の結果では、導入への賛成は少なく、どちらかといえば反対が多い。

- ② 各支部の業務量調査を現在行っている。現在の認定施設・登録施設のカテゴリーに入っていない施設についての調査は、各支部で検討する。

○協議事項は、以下のとおり、承認、決定した。

- 平成 19 年度事業計画並びに収支予算に関する件
事業計画ならびに収支予算は財務委員会から提示のあった原案のとおり承認した。新年度は、例年どおりの事業計画に加えて、新規の講習会及び日本病理学賞の授与を行うことにした。当期収入案は、198,936 千円、当期支出案、195,130 千円である。
- 第 54 回（平成 20 年度）秋期特別総会世話人選出の件
長村理事長より、第 54 回（平成 20 年度）秋期特別総会世話人に応募のあった植田規史・能勢真人教授（愛媛大学）がプログラム推進委員会の議を経て推薦された。協議の結果、原案どおり承認した。
- 第 98 回（平成 21 年度）総会会長の選出の件
長村理事長より、第 98 回（平成 98 年度）総会会長に応募のあった真鍋俊明教授（京都大学）がプログラム推進委員会の議を経て推薦された。協議の結果、原案のとおり承認した。
- 第 97 回（平成 20 年度）総会宿題報告担当者等の選出の件
岡田保典学術委員長より、以下のとおり推薦された。宿題報告担当候補者には、安井 弥（広島大学）、佐藤昇志（札幌医科大学）、岩崎 宏（福岡大学）の 3 名、秋期学術集会シンポジウムは、「科学論文・公的研究資金申請書の書き方」を、病理診断シリーズの講演者には、廣瀬隆則（埼玉医科大学）、向井 清（東京医科大学）の 2 名である。協議の結果、いずれも原案のとおり決定した。
- 会員の海外病理学会参加支援および海外病理学者・研究者の招聘等に関する件
笹野国際交流委員長より、各事業について以下のとおり推薦された。平成 19 年度海外病理学者・研究者の招聘事業は、森井栄一（大阪大学第 96 回日本病理学会総会）担当および小林 寛（聖霊浜松病院）担当の 2 件。平成 18 年度（前期）海外病理学会参加支援事業は、前田永子（名古屋第二赤十字病院）、和仁洋治（倉敷中央病院）、阿部佳子（順天堂大学）、宮国泰香（順天堂大学）、林大久生（順天堂大学）各会員の 5 名である。協議の結果、いずれも原案のとおり決定した。
- 名誉会員の有資格者に関する件
平成 19 年度新名誉会員の有資格者名簿（183 名）を承認し、確認、推戴作業に入ることにした。
- 新入会員の承認の件
長村理事長より、平成 18 年度新入会員上期（平成 18 年 4 月 1 日～11 月 31 日）178 名が諮られた協議の結果、原案のとおり決定した。
- 宿題報告を「日本病理学賞」とする件

学術委員会から提案された標記のことにつき審議した結果、原案通り決定した。

9. 秋期特別総会の「世話人」を「会長」と呼称変更する件
常任理事会より提案された標記のことにつき審議した結果、原案通り決定した。

10. 卵巣腫瘍取り扱い規約の改定の件

従来、日本産科婦人科学会と日本病理学会と合同で作っている。今後日本婦人科腫瘍学会で作ってはどうかと坂本理事より提案があった。この件は、常任理事会で預かることにした。

◇**会員総会**：平成18年11月23日(木)にダイワロイネットホテル和歌山にて、正会員3,898名のうち2,035名(うち委任状出席者数1,860名)の出席を得て開催された。

議長に覚道健一第52回秋期特別総会代表世話人を選び議事を進めた。議事録署名人に出席者代表として、廣瀬隆則(埼玉医科大学)、伊藤隆明(熊本大学)の両会員が指名された。

○報告事項

常任理事会報告

(1) 長村義之理事長

- ① 平成18年10月31日現在の病理学会会員数は、学術評議員1,602名、一般会員2,296名、名誉会員229名、学生会員3名の4,130名である。そのうち、病理専門医は1,928名、口腔病理専門医100名である。
- ② 学生・研修医向けのパンフレット「病理医は求められています」を作成し、配布した。
- ③ 学生・研修医向けのセミナーに参加した。その際の経験から、研修医の受け入れについての状況を認定施設に対してアンケート調査し、その結果をホームページに掲載した。
- ④ 医学会の評議員を森前理事長より、長村現理事長に変更した。
- ⑤ 日本産科婦人科学会婦人科腫瘍委員会より依頼のあった「卵巣腫瘍取り扱い規約改訂」の病理側委員として、坂本穆彦、手島伸一、本山悌一の各会員を推薦した。
- ⑥ 厚生労働省がん対策推進室より、がん拠点病院に関するヒアリングを受け、長村理事長が説明した。
- ⑦ 秋期学術集会への参加単位を20単位とした。
- ⑧ 第100回英国病理学会に参加し、合同記念シンポジウムを行った。
- ⑨ ドイツ病理学会との交流では、研究者の交換を行っており、現在日本から塩沢英輔会員が渡独している。ドイツでは、日本への留学生を募っているところである。また、学術集会時に合同シンポジウム等を行うことになり、第96回総会にはドイツより、Dr. Dietelが特別講演を行う。
- ⑩ 内保連委員を、長村理事から根本理事、斉藤 澄学術評議員から稲山嘉明学術評議員に交代した。

- ⑪ 日本臨床衛生検査技師会との会合をもち、病理技師の育成について話し合った。PAについては話題になったことがないことを確認した。
 - ⑫ 病理教材の共有化のためのホームページ作成を行い、まもなく病理学会ホームページにリンクすることになった。
 - ⑬ 厚生労働省医政局経済課の課長補佐を招いて、9月8日に勉強会を行った。次回診療報酬改訂に向けて優先要望事項をまとめ、意見を伺った。
 - ⑭ 医学会用語委員会で行っている「日本医学会医学用語辞典 英和 第3版」の改訂については、医学会用語委員の坂本理事および用語代委員の森永正二郎学術評議員が担当する。
 - ⑮ 日本医学会より、「日本医学会における今後の検討事項について」のアンケート調査があったので当学会としては「医療関連死における諸問題」と「医療の質と安全について」と回答した。
 - ⑯ 倫理委員会の委員の増員を行った。伊藤雅文、本山悌一、長嶋洋治の各学術評議員である。
 - ⑰ 10月18日に厚生労働省医療課の課長補佐と面談した。当学会からは、長村理事長、根本医療業務委員長、水口病理診断体制専門委員長および、稲山社会保険小委員長が参加した。病理診断を別部門にして欲しいことなどを中心に要望書を提出した。
 - ⑱ 病理医についての広報活動の強化のため、ホームページの有効活用の検討を広報委員会に依頼した。
 - ⑲ 秋期特別総会の世話人を「会長」と呼称変更することが理事会で認められた。
- (2) 深山正久副理事長(企画委員会)
- ① 「若手病理医育成のためのワークショップ」を企画委員会、病理専門医制度運営委員会および教育委員会の合同で、8月20日に開催した。「魅力ある病理学を若人にどう伝えるか」をテーマに5グループに分かれて討論を行った。その結果は提言にまとめられ、ホームページに掲載されることになっている。
 - ② 「若手医師確保に関する小委員会」を設置することにした(委員長は虎の門病院の大橋健一学術評議員)。
 - ③ 臨床医学と病理学の対話を促進し、病理医の生涯学習に役立てる企画として「診断病理サマーフェスト：病理と臨床の対話」を、平成19年8月11日・12日に開催することにした(サマーフェスト小委員長長真鍋理事)。将来的には、生涯教育委員会への発展も考えられる。
- (3) 岡田保典副理事長・常任理事(学術委員会・研究推進委員会・編集委員会)
- ① 学術委員会
 - i. 宿題報告の選考を行い、安井 弥(広島大学)、佐藤昇志(札幌医科大学)、岩崎 宏(福岡大学)に決定

した。

- ii. 平成 19 年度秋期学術集会のシンポジウムとして「科学論文・公的研究資金申請書の書き方に決定した。
- iii. 平成 19 年度秋期学術集会の病理診断シリーズとして「胸腺腫と胸腺癌 (向井 清)」と「脳腫瘍: 鑑別診断を中心として (廣瀬隆則)」に決定した。
- iv. 学術研究賞 (A 演説) の募集書類に履歴書を追加することにした。
- v. 宿題報告を顕彰することにし「日本病理学賞」とすることが、理事会で認められた。
- vi. 病理診断シリーズ講演は、「特定の疾患や臓器における病理診断に関して、それを専門として卓越した経験と見識をもつ本学会員が担当し、担当疾患の病理診断に関して主として解説的に講演する」とした。
- vii. プログラム推進委員会に、病診断講習会および IAP セミナーとの調整を依頼した。

② 研究推進委員会

- i. 第 4 回病理学会カンファレンスを、平成 19 年 7 月 27 日・28 日に旭川医大小川勝洋教授を世話人に開催する。テーマは「肝臓疾患の現状と課題 (仮題)」である。
- ii. 第 7 回技術講習会を、平成 19 年 12 月 5 日 (秋期特別総会前日) に国立がんセンター東病院落合淳志部長を世話人に開催する。今後講習会を継続するかは検討中である。

③ 編集委員会

- i. Pathology International の 2006 年の投稿数は 270 編程度で例年並みである。採択率を現在の 40% から 50% くらいにすることが望ましい。2005 年のインパクトファクターは 0.925 であった。Blackwell 社が既刊分の電子版を作成することになった。「宿題報告」は今後、Pathology International に掲載したい。
- ii. 「診断病理」は年間 73 編を掲載した。平成 19 年度からの新編集長を公募により選出する。
- iii. 剖検輯報は、第 48 輯を作成中である。

(4) 黒田 誠常任理事 (病理専門医部会)

① 病理専門医制度運営委員会

- i. 平成 19 年度病理専門医試験は、平成 19 年 7 月 28 日・29 日に東京医科歯科大学を会場に実施予定である。
- ii. 平成 19 年度試験からは、出願時 (4 月末日) に死体解剖資格及び細胞診講習会受講証明書が必ず揃っていることとする。該当の細胞診講習会は、全臓器を網羅する日本病理学会主催の講習会および臨床細胞学会の講習会のみである。
- iii. 平成 19 年の細胞診講習会は 3 月 3 日・4 日に、東京慈恵会医科大学にて実施予定である。

- iv. 本年度より大学病院 (分院を含む) も研修施設 (認定施設あるいは登録施設) として認定審査を行った。80 大学すべて認定施設 A として認定された。分院については、認定施設および登録施設としての申請通りに認定された。
- v. 第 96 回総会 (大阪) での病理診断講習会は決定済みである。

② 医療業務委員会

- i. 次回診療報酬改訂にむけて、病理診断を独立して第 4 部の新設を最重要要望項目とする。
- ii. 標榜科については病院機能としての表示を要望していくことが現実的と思われる。

厚生労働省への医師届出票に、従事する診療科名項目に今回「病理」が新規選択肢と記載された。これは専門職として厚生労働省が認めたということで、標榜科への第一歩となる。

○協議事項は、以下のとおり、承認、決定された。

1. 平成 19 年年度事業計画並びに収支予算に関する件
事業計画ならびに収支予算は、原案のとおり決定した。
2. 第 54 回 (平成 20 年度) 秋期特別総会世話人選出の件
植田規史・能勢真人教授 (愛媛大学) が推薦された。協議の結果、原案どおり承認した。
3. 第 98 回 (平成 21 年度) 総会会長の選出の件
真鍋俊明教授 (京都大学) が推薦された。協議の結果、原案のとおり承認した。

◇平成 19 年度事業計画ならびに収支予算について: 社団法人日本病理学会平成 19 年度事業計画ならびに収支予算は、以下のとおりである。

○平成 19 年度事業計画

(平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日)

〔事業の概要〕

I. 学術集会、研究会等の開催

1. 学術集会の開催

- (1) 第 96 回日本病理学会総会 (於大阪・青笹克之会長)
- (2) 第 53 回日本病理学会秋期特別総会 (於東京・向井 清会長)

2. 研究会、講習会等の開催

- (1) 第 4 回日本病理学会カンファレンス
- (2) 細胞診講習会
- (3) 病理診断講習会
- (4) 技術講習会
- (5) 各支部における学術・研究集会
- (6) 新規講習会

3. 公開講座・シンポジウムの開催

II. 学会誌、学術図書等の発行

1. 「日本病理学会会誌」の発行 (第 96 巻第 1～2 号)

2. 「Pathology International」の発行 (Vol. 57 4～12, Vol. 58 1～3)
3. 「診断病理」の発行 (第24巻第2～4号, 第25巻第1号)
4. 「日本病理学会会報」の発行 (第231～242号)
5. 「病理専門医部会報」の発行 (2007年第2～4号, 2008年第1号)

III. 研究および調査

1. 「日本病理剖検輯報」の発行 第48輯 (平成17年症例)
2. 剖検輯報編集方法の変更・充実
3. 剖検記録データベースの再構築

IV. 病理専門医等の資格認定

1. 病理専門医・口腔病理専門医の認定・試験の実施及び資格の更新
2. 病理専門医の広告
3. 研修手帳の実施
4. 研修施設の認定および資格の更新

V. 学術団体との協力, 連絡

1. 学術団体等との会議共催および後援
2. 腫瘍取扱い規約等の改訂
3. 海外病理学会との交流
 - (1) 英国病理学会との会員の相互派遣, 学術交流
 - (2) ドイツ病理学会との学術交流

VI. その他目的を達成するために必要な事業

1. 日本病理学会学術奨励賞の授与
2. 日本病理学会学術研究賞の授与
3. 日本病理学会賞の授与
4. 会員の海外派遣
5. 病理学卒前教育の充実
6. 病理診断コンサルテーションシステムの充実
7. インターネットホームページの充実
8. 医師賠償責任保険加入取扱いの実施
9. 病理専門医制度運営, 医療業務, 学術・研究等の各種委員会の開催

○平成19年度収支予算

(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

(単位: 円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減
I. 収入の部			
1. 基本財産運用収入	1,000	1,000	0
2. 会費収入	73,430,000	73,280,000	150,000
正会員・学術評議員会費	31,000,000	29,000,000	2,000,000
同 終身会費	3,000,000	2,000,000	1,000,000
同 一般会員会費	27,000,000	30,000,000	△ 3,000,000
学生会員会費	30,000	30,000	0
賛助会員会費	250,000	350,000	△ 100,000
機関会員会費	450,000	500,000	△ 50,000

病理専門医部会費	11,700,000	11,400,000	300,000
3. 事業収入	110,500,000	105,000,000	5,500,000
学術集会収入	70,000,000	65,000,000	5,000,000
論文掲載料収入	3,000,000	3,000,000	0
広告料収入	1,000,000	1,500,000	△ 500,000
刊行物発行収入	15,000,000	14,000,000	1,000,000
専門医制度収入	15,000,000	14,000,000	1,000,000
病理専門医部会収入	4,000,000	4,000,000	0
講習会等収入	500,000	2,000,000	△ 1,500,000
賠償責任保険事務費収入	2,000,000	1,500,000	500,000
4. 補助金収入	11,000,000	11,000,000	0
5. 繰入金収入	2,500,000	1,910,000	590,000
学術医療基金繰入金収入	2,500,000	1,910,000	590,000
6. 雑収入	1,505,000	705,000	800,000
受取利息収入	5,000	5,000	0
雑収入	1,500,000	700,000	800,000
当期収入合計 (A)	198,936,000	191,896,000	7,040,000
前期繰越収支差額	39,758,000	40,483,000	△ 725,000
収 入 合 計 (B)	238,694,000	232,379,000	6,315,000

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減
II. 支出の部			
1. 事業支出	157,800,000	154,450,000	3,350,000
学術集会経費	71,800,000	66,800,000	5,000,000
学会誌発行経費	37,000,000	35,000,000	2,000,000
会報発行経費	3,500,000	3,300,000	200,000
剖検輯報刊行経費	14,000,000	17,000,000	△ 3,000,000
専門医制度運営経費	8,500,000	9,300,000	△ 800,000
病理専門医部会経費	8,000,000	10,000,000	△ 2,000,000
支部運営経費	6,000,000	3,350,000	2,650,000
学術奨励等経費	4,500,000	3,000,000	1,500,000
講習会等経費	1,000,000	4,200,000	△ 3,200,000
各種委員会経費	3,500,000	2,500,000	1,000,000
2. 管理費	32,030,000	32,320,000	△ 290,000
人件費	15,000,000	15,700,000	△ 700,000
福利厚生費	1,500,000	1,650,000	△ 150,000
交通費	500,000	700,000	△ 200,000
通信運搬費	3,000,000	2,200,000	800,000
会議費	1,500,000	1,500,000	0
印刷費	2,000,000	2,000,000	0
備品費	200,000	200,000	0
消耗品費	400,000	300,000	100,000
水道光熱費	230,000	230,000	0
賃借料	2,600,000	2,600,000	0
諸会費	800,000	950,000	△ 150,000
補助費	200,000	200,000	0
修繕費	100,000	100,000	0

嘱託費	1,500,000	1,490,000	100,000
租税公課(消費税等)	2,000,000	2,000,000	0
雑費	500,000	500,000	0
3. その他	4,300,000	3,300,000	1,000,000
退職給与引当預金支出	1,600,000	1,500,000	100,000
学術医療基金引当預金 繰入支出他	2,700,000	1,800,000	900,000
4. 予備費	1,000,000	1,000,000	0
当期支出合計 (C)	195,130,000	191,070,000	4,060,000
当期収支差額 (A-C)	3,806,000	826,000	2,980,000
次期繰越収支差額 (B-C)	43,564,000	42,309,000	1,255,000

◆第96回総会(平成19年度):大阪大学を世話機関として青笹克之会長,寺田信行副会長・仲野 徹副会長のもとで,平成19年3月13日(火)~3月15日(木)の3日間,大阪国際会議場にて開催された。

宿題報告は,白井智之教授(名古屋市立大学)による「前立腺癌の発生・進展とその予防に関する基礎的研究」,内藤 眞教授(新潟大学)による「マクロファージの分化・機能制御機構と疾患」,高松哲郎教授(京都府立医科大学)による「不整脈源性基質を求めてーバイオフィotonクスを用いた心臓病理学ー」の3題であった。

特別講演は, Vinay Kumar 博士 (University of Chicago, USA) による「Origin and Evolution of Robbins Pathology and speculations on the medical texts of the future: A personal perspective」,長田重一教授(大阪大学)による「アポトーシス細胞の食食とその異常」の2題であった。また教育講演は,高田賢蔵教授(北海道大学)による「EBウイルスと癌」,田島和雄部長(愛知県がんセンター研究所)による「病理学と疫学の接点を模索する民族疫学」,青笹克之教授(大阪大学)による「膿胸関連リンパ腫(Pyothorax-associated lymphoma: PAL)ー新しい疾患単位の確立」の3題であった。その他,ワークショップ9件,日独病理交流セッション,シンポジウム(日英シンポジウム・アジアシンポジウム含む)3件,コンパニオンミーティング,学生ポスター発表が行われた。一般演題は1,048題が発表された。

また,系統的病理診断講習会(腎・腎盂,尿管・尿道の腫瘍前立腺,膀胱の腫瘍 精巣・副睾丸の腫瘍)および臓器別病理診断講習会(婦人科・呼吸器・消化管・皮膚・細胞診・乳腺・骨軟部)が開かれた。

○今後予定されている総会は以下のとおりである。

- 1) 第53回(平成19年度)秋期特別総会
世話機関:東京医科大学
会 長:向井 清 教授
会 期:平成19年12月6日(木)~7日(金)
会 場:江戸川総合区民ホール(タワーホール船堀)

- 2) 第97回(平成20年度)総会
世話機関:金沢大学
会 長:中沼安二 教授
会 期:平成20年5月15日(木)~17日(土)
会 場:石川県立音楽堂他
- 3) 第54回(平成20年度)秋期特別総会
世話機関:愛媛大学
会 長:植田規史 教授
会 期:平成20年11月20日(木)~21日(金)
会 場:松山市総合コミュニティーセンター
- 4) 第98回(平成21年度)総会
世話機関:京都大学
会 長:真鍋俊明 教授
会 期:平成21年5月1日(金)~3日(日)
会 場:京都国際会館

◇上記特別総会に関連して開催された理事会,学術評議員会,病理専門医部会ならびに総会について:平成19年2月13日に東京・学士会分館,および3月12日に大阪国際会議場にて理事会が開催され,3月13日には学術評議員会・病理専門医部会,3月14日には総会が開かれた。総会の席上で,第8回(平成18年度)学術奨励賞授賞式が行われた。

これらの理事会,学術評議員会および総会では,理事長,委員会委員長および部会長の報告があった。

協議事項としては,総会においては新名誉会員34名の推戴者並びに新学術評議員31名の候補者が協議され,それぞれ理事会承認の原案どおり決定した。

このほか,理事会では,常置委員会学術評議員新委員の選出,平成17年度下期の新入会員44名(年度合計222名)が,それぞれ原案のとおり承認された。

なお,役員の前年に関する定款細則の改定案についても,理事会・総会にて原案どおり承認された。

また,学術評議員会では,「病理学会カンファレンス・病理技術講習会について」(岡田学術委員長),「病理学会人材育成について」(深山企画委員長)などが,病理専門医部会では,「病院の機能表示 広告規制緩和について」「診療報酬改定に向けて」(黒田病理専門医部会長)など,それぞれ報告・討議が行われた。

◇春期理事会:平成19年2月13日(火)に学士会分館にて春期理事会のほか学術委員会が開催された。理事会には長村義之,真鍋俊明,岡田保典,深山正久,黒田 誠,林 良夫,樋野興夫,井内康輝,中島 孝,中沼安二,根本則道,小川勝洋,坂本穆彦,澤井高志,居石克夫,恒吉正澄,堤 寛(以上理事),松原 修(以上監事),大藪いづみ,菊川敦子(以上事務局)の各氏が出席した。長村理事長の司会により議事を進行した。議事録署名人名には出席者代表として井内康輝,堤 寛両理事が指名された。

○報告事項

1. 理事長報告

- (1) 平成18年度より新規に大学病院に認定施設番号をつけるにあたり、従来の市中病院の認定施設番号とは別に、大学関連施設であることが認識できるようにすることにした(地区番号の次に9を入れる)。既に認定証を病院長宛送付済みである。
- (2) 癌取扱い規約小委員会の坂本委員長より要望のあった「卵巣腫瘍取り扱い規約」の改訂に際しての病理側委員の増員につき、長坂徹郎、安田政実の両学術評議員を了承した。病理側の委員長には本山梯一学術評議員があたることも了承した。また、今後の改訂作業を日本婦人科腫瘍学会主体で進める方向を了解した。
- (3) 秋期特別総会時の市民公開講座のレポートが堤理事より提出された。
- (4) 秋期特別総会時に会員より提案された講演のビデオ収録について検討したが、画質の問題やコストがかかることから見送ることとした。
- (5) 厚生労働省医療課原徳壽課長と面談するにあたり、稲山委員長作成の要旨に基づいて今後の要望方針を検討した。面談では、病理診断料の別項目(第4部)にすることを中心に要望し、医療課からは診療報酬は患者の流れに則して設置されること、また標榜科の取り扱いも患者の視点から行われるべきであることの説明があった。また、病理の開業について、衛生検査所での病理診断の現状についても説明をした。
- (6) 12月20日に開催された厚生労働省がん対策の推進に関する意見交換会(ヒアリング)には深山副理事長が参加し、診断の重要性について発表した。病理医不足については具体的に述べてほしいと出席委員の発言があった。
- (7) がん拠点病院にバーチャルスライドを導入することについては、厚生労働省より自治体に発信したお知らせをホームページに掲載した。
- (8) CAP Proficiency Test (PT) 精度管理について、日本の精度管理への働きかけが来ておりその資料を閲覧した。対応については検討中である(一部審議事項へ)。
- (9) 医療関連死に関するモデル事業について黒田理事より、今までの案件につきアンケートをとって問題点の洗い出しをしているとの報告があった。
- (10) 脳神経外科学会に対して「脳腫瘍取扱い規約」の改訂の検討を依頼することにし、中里洋一群馬大学教授の提案を基に依頼書を脳神経外科学会吉本高志理事長に提出した。
- (11) 若手医師確保に関する小委員会については企画委員会から報告がある。
- (12) 日本病理学会百周年記念事業については企画委員会から報告がある。
- (13) 深山企画委員長より、現在のホームページの問題点やり

ニューアルする場合の業者見積もりが提示され、その際の維持費など調査の上、広報委員会に検討を依頼することとした。

- (14) 病理教材の共有化のホームページについては予算措置も完了し、近日中に病理学会ホームページにアップ予定である。
 - (15) 2月16日に厚生労働省医政局総務課の菊岡調整官と面談の予定である。「診療内容の公告規制緩和」について説明を受けることにしている。また保険局医療課との面談や勉強会も計画中である。
 - (16) 専門医認定制協議会の協議委員は、長村理事長から黒田病理専門医部会長に交代した。
 - (17) 臨床系学会連絡会議(仮称)については多くの臨床系学会が参加している現状から日本病理学会も参加することとした。
 - (18) レジナビフェアへの参加については企画委員会から報告がある。
 - (19) がん拠点病院のコンサルテーションについては専門医部会より報告がある。
 - (20) 研究発表の倫理について学術会議からも通達があるので、病理学会倫理委員会に研究倫理を討議する役目であることを確認し、具体的案件の調査・審判ではなく、結論の出た事例に対しての学会の対応を審議依頼することにする。
2. 各種委員会委員長報告
- (1) 企画委員会(深山正久委員長)
 - ① 若手医師確保に関する小委員会では、病理研修の受け入れ体制について大学病院にアンケート調査を実施中であり、結果をホームページに掲載する。
 - ② 学生・研修医対象のレジナビフェアに参加するに伴い、啓発のためのパンフレットを作成する。昨年の「病理医は求められています」の増刷に108,000円、新たにA3二つ折のパンフレット作成に180,000円を支出することにしたい。レジナビフェアへの参加について、堤理事より、参加者(特に若手)には交通費と日当が出るよう予算措置をしてほしいとの意見が出された。
 - ③ 病理学会のホームページ改訂を広報委員会に提案している。
 - ④ 診断病理サマーフェストは8月11日・12日に開催するが、受講料は17,000円程度を予定している。サマーフェスト小委員会は真鍋委員長をはじめ5名である。今後5年を目途に開催する。開催地として大都市を回ることも考えている。これについては、支部でのセミナーとの整合性も勘案する必要がある。
 - ⑤ 日本病理学会百周年記念事業については、まず運営委員会を立ち上げることから始める。次回理事会には具体的な案とスケジュールを提示したい。
 - ⑥ 病理学会機構改革に関し、まず学術評議員を実効ある

評議員にするべく検討の小委員会を立ち上げることを考えている。

- ⑦ 文光堂が刊行する「腫瘍病理鑑別診断アトラスシリーズ」に刊行委員を推薦し、表紙に「日本病理学会編集協力」と記載する。その際、印税を受け取ることにについては、会計事務所に相談している。
- (2) 財務委員会（真鍋俊明委員長）

本年の春の総会が3月中に開催されるため、平成18年度収支決算報告ができない。そのため、5月22日(火)に臨時決算総会を開催する予定である。
- (3) 学術委員会（岡田保典委員長）
 - ① 和歌山の秋期特別総会には、740名の参加があった。学術集会改革案の先取りをした活発な集会であった。
 - ② 病理診断講習会と学術集会のプログラムの関係については、今後はプログラム推進委員会があたる。
 - ③ 今後、宿題報告はPathology Internationalのみに掲載する。
- (4) 病理専門医部会（黒田 誠部会長）
 - ① 平成19年度の病理専門医試験は7月28日・29日のに東京医科歯科大学にて行われる。これに伴い今年の細胞診講習会の申し込みが80名弱あるので、受験者は80数名になることが予想される。
 - ② 研修手帳の実施が平成19年度後期研修医より始まる。
 - ③ 医療関連死のモデル事業については、2年が経過するので見直しに入っている。
 - ④ がん拠点病院にバーチャルスライドシステムを導入することについては、厚生労働省に86の応募があった。国立がんセンターを中心としたコンサルテーションシステムと、病理学会のコンサルテーションシステムとの関係については、会員の間に戸惑いもあるので、今後方向性、整合性について検討していく必要がある。
- (5) 広報委員会（坂本穆子彦委員長）
 - ① ホームページのトップページの改訂を行った（新着情報を掲載）。
 - ② 会員の追悼文をホームページに掲載するフォームについては検討中であり、次回理事会に提示する。
 - ③ ホームページのリニューアルについて企画委員長より意見と業者の見積りがあったが、これについては経費の支出が認められるのであれば、具体的な検討に入りたい。
- (6) 研究推進委員会（樋野興夫委員長）

第4回日本病理学会カンファレンスは7月27日・28日旭川にて開催される。技術講習会とともに今後の開催については、委員会で検討する。
- (7) 編集委員会（恒吉正澄委員長）

「Pathology International」の採択率が低いので、上げていく必要がある。
- (8) 医療業務委員会（根本則道委員長）

- ① コンサルテーション小委員会は、前委員長の石倉先生が急逝されたため、後任に森永正二郎学術評議員が正式に委員長に就任した。平成19・20年度の臓器別リーダーが決定した。
- ② 社会保険小委員会（稲山嘉明委員長）では、今回の診療報酬改定に向けて、要望事項の検討に入っている。病理診断を検査から独立させ、第4部の新設を要望する。内保連や外保連になかの委員会で検査関連の委員会には今まで関与していないところもあったが、今後はそれら委員会にも正式に入れるよう運動していく（例悪性腫瘍関連委員会）。
- (9) 口腔病理専門医制度運営委員会（林 良夫委員長）

口腔病理専門医の広告については進んでいないので、再度要望書を提出することも考えている。また、診療報酬については、医科の読み替えを行ってきたが、正式な診療報酬として表に掲載されるよう、要望してほしい。
- (10) 教育委員会（堤 寛委員長）
 - ① 今夏にはワークショップを開催する予定である（テーマ例 特色ある大学のカリキュラム）
 - ② 病理コア画像については、少し足りないところもあるが、近日中にホームページに掲載する。また、CDにプレスして販売することも考えている。
- (11) 国際交流委員会（笹野公伸委員長）

ドイツ病理学会との交流については継続して検討している。
- (12) 支部委員会（小川勝洋委員長）

PAの導入について支部においてアンケートをとった結果は、どちらかといえば反対意見が多い。また、業務量の調査中である。

○協議事項

1. 第53回(平成19年度)秋期特別総会学術研究賞演説(A演説)・B演説担当者の選出の件

学術委員会より、標記特別総会における学術研究賞演説(A演説)8題(応募16題)、B演説2題(応募4題)の推薦があった。協議の結果、それぞれ原案通り決定した(応募順)。

 - ・学術研究賞演説(A演説):
 - (1) 石丸直澄(徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部口腔分子病態分野)
 - (2) 北澤理子(神戸大学大学院医学系研究科生体情報医学講座分子病理学分野)
 - (3) 片野晴隆(国立感染症研究所感染病理部)
 - (4) 千葉英樹(札幌医科大学医学部病理学第二講座)
 - (5) 相島慎一(国家公務員共済組合連合会浜の町病院病理)
 - (6) 岩屋啓一(東京医科大学病理診断学講座)
 - (7) 石井源一郎(国立がんセンター東病院臨床開発セ

ンター臨床腫瘍病理部)

(8) 鳥越俊彦 (札幌医科大学医学部病理学第一講座)

・B 演説:

(1) 大井章史 (金沢大学大学院医学研究科分子細胞病理学) 小林雅子, 勝田省吾, 中西功夫

(2) 山口岳彦 (札幌医科大学病理診断学)

2. 第8回(平成18年度)学術奨励賞受賞者の選出の件

学術奨励賞選考委員会より, 第8回(平成18年度)学術奨励賞受賞候補者に5名(応募6名)の推薦があった。協議の結果, 原案のとおり決定した(ABC順)。

(1) 工藤保誠 (広島大学大学院医歯薬学総合研究科口腔顎顔面病理病態学研究室)

(2) 岡部光邦 (名古屋市立大学大学院臨床病態病理学)

(3) 齋藤 剛 (東京医科大学病理診断学講座)

(4) 仙波秀峰 (神戸大学大学院医学系研究科外科病理学分野)

(5) 山下 篤 (宮崎大学医学部病理学第1講座)

3. 平成19年度新名誉会員候補者名簿に関する件

平成19年度新名誉会員候補者の名簿(2月13日現在では, 35名)を承認した。

4. 平成19年度新学術評議員候補者名簿に関する件

平成19年度新学術評議員候補者名簿(31名)を承認した。

5. 「診断病理」新編集長選出の件

向井萬起男学術評議員1名のみからの応募であり, 坂本理事よりの推薦もあったため, 向井学術評議員に決定した。

6. 各種委員会委員の選出に関する件

平成19年度の各種委員会において, 学術評議員委員の交代の必要のあった委員会については以下のとおり決定した。新任・再任についてはいずれも任期2年である。

(1) 学術委員会(任期満了後1年は再選不可)

留任 高橋雅英 立松正衛 高松哲郎

新任 内藤 眞 佐藤昇志 安井 弥

(2) 研究推進委員会(任期満了後1年は再選不可)

留任 北川昌伸 白井智之 高橋雅英

安井 弥

新任 加藤光保 横崎 宏

(3) 病理専門医制度運営委員会(再任を妨げない)

留任 森谷卓也 仁木利郎 梅村しのぶ

石黒信吾 森永正二郎

再任 橋本 洋 清水道生 田村浩一

(4) 医療業務委員会(再任を妨げない)

留任 松野吉宏 清水道生

再任 廣川満良 湊 宏 大橋健一

(5) 口腔病理制度運営委員会(再任を妨げない)

留任 朔 敬 高田 隆 山口 朗

再任 井上 孝 出雲俊之

新任 豊澤 悟

(6) 国際交流委員会(再任を妨げない)

留任 福永真治 三上芳喜 長嶋洋治
梅村しのぶ

再任 荒川 敦

7. 役員の定年に関する件

標記につき常任理事会より, 定款施行細則の改定が提案された。

定款施行細則(第3章役員の選任 第10条)

旧役員(理事 監事)は, 就任時年度内の年令が満63歳以下の者とする。

新役員(理事 監事)は, 就任時の年令が満63歳以下の者とする。

定年の実質1年の延長となるので, 的確な説明を総会ですることとすることで, 理事会では提案通り決定し, 総会に上程することとした。

◇**理事会**:平成19年3月12日(土)大阪国際会議上にて理事会および各種委員会が開催された。理事会には長村義之, 真鍋俊明, 岡田保典, 黒田 誠, 青笹克之, 林 良夫, 樋野興夫, 井内康輝, 中島 孝, 中沼安二, 根本則道, 小川勝洋, 坂本穆彦, 笹野公伸, 澤井高志, 居石克夫, 恒吉正澄, 堤 寛(以上理事) 寺田信行(第96回総会副会長), 松原 修, 手塚文明(以上監事), 大藪いづみ, 菊川敦子(以上事務局)の各氏が出席した。長村理事長の司会により議事を進めた。

議事録署名人には出席者を代表して林 良夫, 坂本穆彦両理事が指名された。

○報告事項

1. 理事長報告

(1) 厚生労働省医政局総務課菊岡修一調整官との面談について, 水口國雄病理診断体制専門委員会委員長より報告があった。病院の医療行為の表示に, (1)病理施設が整備, (2)専門医による病理診断, 迅速病理検査がなされているが明示された。病理診断の開業(病理診断施設)は, 現行の法制の中では難しい。現在調整中の項目もあり, 菊岡調整官に密に情報提供を依頼した。「標榜科問題」について, これまで獲得してきた事項の整理と, 今後目指すところのものを整理していく必要がある。

(2) 日本学術会議病態医科学分科会については2月10日の委員会に長村理事長を委員長として開催された。深山副理事長と藤田眞幸教授(慶應大学法医学)に「病理と法医学の連携についての公開講座」を依頼した。病理学と基礎研究分野との連携は, 鍋島陽一教授(京都大学)が病理学会総会にシンポジウムを申し入れることとなった。

(3) 日本専門医認定機構総会については, 3月5日の総会に長村理事長が出席した。

(4) 日本がん治療認定医機構より連携・協力および機構関連学会連絡委員会への参加要請があったのでいずれも諾と

の返事をする事とした。

- (5) 病理学会 100 周年記念事業については 50 周年の記念誌等も参考にして、記念事業の内容およびスケジュールを検討し理事会に諮ることとした。
- (6) 病気腎移植については宇和島徳洲会病院の専門委員会に井藤久雄倫理委員長が加わっている。移植学会より、病気腎移植に関して統一見解に加わるかどうかの問い合わせがあったので、今後、病理学会としてどのように対応するか理事会に諮ることとした。

2. 各種委員会委員長報告

(1) 企画委員会（深山正久委員長 代理長村理事長）

- ① 全国の大学病院を対象にした病理研修に関するアンケートを実施した（回収率は 82.5%）。以前の病院を対象にしたアンケート結果も合わせて HP など何らかの形で公開する予定である。それによると、全国的には約 90 名の先生が初期研修で病理を選択し、平成 18 年には 31 名が病理の後期研修医となっている。また、後期研修医を得ている大学では初期研修で病理を選択している人数が多い傾向にある。

また、7月のレジナビフェアへ（学生対照）に参加する予定である。これにはブース出展料 15 万円および参加スタッフに総額 10 万円を上限に旅費等を用意することとした。

- ② 診断病理サマーフェスト（病理と臨床の対話）は 8 月 11 日・12 日に開催する。真鍋委員長のもと、5 名の委員で準備・計画立案が進行中である。これのパンフレット・申し込み用紙を作成し、病理学会、放射線学会、婦人科腫瘍学会において配布する予定である。
- ③ 文光堂から、腫瘍鑑別シリーズに関する編集協力の依頼があり、アトラス刊行委員会への委員の推薦を行うことにした。
- ④ 病理学会 100 周年記念行事については実行委員会の会則（案）をご提示するので検討をお願いしたい。審議の結果、会則（案）は承認された。

(2) 広報委員会（坂本穆彦委員長）

- ① 追悼記事をホームページに掲載する欄を設けることになっているが、そのフォーマットを提示する。お一人につき 1 件のみの掲載とする。
- ② ホームページの運営をサポートする嘱託職員を採用することにしたい。了承されたので人選をし常任理事会に諮ることとした。

(3) 財務委員会（真鍋俊明委員長）

- ① 本年の春の総会が 3 月中に開催されるため、今回の理事会・総会では平成 18 年度収支決算報告ができない。そのため、5 月 22 日（火）に臨時に決算のための総会を開催する予定である。
- ② 学術集会の補助金は現在、春期が 100 万円、秋が 50 万円であるので、これの増額をする。補助金額について

は、財政状況をみて設定していくことになる。

(4) 学術委員会（岡田保典委員長）

- ① 学術奨励賞の応募件数を増やすことに関して本賞の周知促進のため、春期学術集会においてポスター発表ができるよう学会長に願う。また、「Pathology International」「診断病理」の編集長よりの推薦も受け付けているので、推薦をしてもらうよう徹底したい。
- ② 宿題報告＝日本病理学賞の応募に関しては、これまでの自薦に加えて、他薦による応募を可能とする。

(5) 研究推進委員会（樋野興夫委員長）

- ① 第 4 回病理学会カンファレンスは、小川勝洋先生（旭川医科大学病理学 教授）を世話人とし、平成 19 年 7 月 27 日・28 日に「肝臓疾患の現状と課題」をテーマに開催される。第 5 回病理学会カンファレンス（平成 20 年）は、梅澤明弘先生（国立生育医療センター研究所 部長）を世話人とし、「再生医学・幹細胞（仮題）」をテーマに開催される。
- ② 第 7 回技術講習会は、落合淳志先生（国立がんセンター 東病院）を世話人に秋期特別総会の前日に開催される。第 8 回以降も継続することを確認し、内容と方向性について審議する。

(6) 編集委員会（恒吉正澄委員長）

- ① Pathology International: 2007 年の投稿数は 283 編で昨年より増加し、論文採択率は 50% 前後である。Blackwell 社と Wiley 社との合併の予定であるが、編集・刊行に関しては今まで通り変更はないようである。宿題報告は Pathology International に Review として掲載することとした。
- ② 診断病理は第 24 巻が順調に編集中である。新編集長として、向井萬起男先生（慶應大病理）が選出されている。
- ③ 剖検輯報第 48 輯の編集は順調に進行しているが、剖検数は 18,900 と減少している。登録施設数は 819 で増加している。

(7) 病理専門医制度運営委員会（黒田 誠委員長）

- ① 施設審査委員会で施設更新の審査をおこなった。認定施設では 188 施設からの更新申請があり、184 施設が認可された。登録施設では 90 施設からの更新申請があり、89 施設が認可された。
- ② 平成 19 年度病理専門医試験は、7 月 28 日・29 日東京医科歯科大学にておこなわれる。また、3 月 3 日・4 日に細胞診講習会は開催済みである。受験申請時には、細胞診講習会の受講証明と死体解剖資格取得が必須であるが、細胞診専門医（日本臨床細胞学会認定）取得者については今後講習は免除とすることとした。
- ③ モデル事業では、全国 7 地域で 45 件解剖をおこない 17 件報告済みである。報告までには平均 7 ヶ月かかっている。「診療行為に関連した死亡の死因究明等」のあり

方に関する課題と検討の方向性」については、厚生労働省でパブリックコメントを募集している。

(8) 医療業務委員会（根本則道委員長）

- ① コンサルテーション小委員会：コンサルテーションガイドラインの改定（特に依頼書の整備）をおこなった。コンサルテーションボード（平成19年度、20年度）決定した。コンサルタントフィーについては引き続き検討する。
- ② 社会保険小委員会：平成20年度の診療報酬改定に向けた要望をとりまとめている。病理診断の独立（第13部としての新設要望）を最重要項目とする。
- ③ 精度管理小委員会：病理診断依頼用紙のガイドラインや、病理診断報告様式のガイドラインを作成中である。
- ④ 癌取り扱い規約小委員会：改定作業が進行中の規約としては、卵巣腫瘍と脳腫瘍がある。
- ⑤ 地域医療ネットワーク小委員会：病理医の適正配置については、業務量の調査を支部委員会と連携しておこなう。がん診断の均てん化についてネットワークを充実し協力していきたい。
- ⑥ 病理診断体制専門委員会：標榜科の実現について厚労省と交渉中であるが、患者の流れがないので実現は難しい可能性があること、今後の交渉に関する見通しについては先方からの連絡待ちである。
- ⑦ 針による“いわゆるネクロプシー”は医学的な意義はあるが、剖検輯報には記載を認めない。
- ⑧ 法的にホルマリンの取扱いが変わり、濃度1%以上の液を使用する場合には講習を受けた取扱い従事者が必要になること、保管に関する設備が必要であること、年1~2回の作業環境測定が必要になることなどが定められる予定であるため、対応が必要である。

(9) 口腔病理専門医制度運営委員会（林 良夫委員長）

研修要綱の作成をおこなっている。病理専門医の研修要綱のうち、口腔分野について修正してほしい部分があるので、今夏までには提案することになっている。

(10) 教育委員会（堤 寛委員長）

- ① 病理各論コア画像については、病理学会ホームページに掲載した。さらにブラッシュアップすることになっている。また、現在のものをCDにプレスして販売する予定で、大学関係は本部事務局が、市中病院について支部単位で数をまとめることにする。
- ② 卒前病理学教育についてのワークショップを、9月15日（土）藤田保健衛生大学において開催する予定である。

(11) 国際交流委員会（笹野公伸委員長）

- ① 日本病理学会会員海外派遣事業では2名を派遣することに決定した。
- ② 日本病理学会海外病理学会参加支援事業では4名に補助金を支出することに決定した。

③ ドイツとの交流事業は、今後も合同シンポジウムを開催するなど継続することにした。

④ 英国との交流事業は、今後形態を変えたとしても継続していくことを検討している。

(12) 支部委員会（小川勝洋委員長）

① 病理医の適正配置について

新卒後臨床研修制度および必修化に伴い、病理学領域に入る人材が著しく減少している状況や、診断病理医の高齢化が進んでいる中、各地域において、病理医の数、仕事量などを継続的に調査、把握していく必要があることが確認された。

② 病理各論コア画像のCDの販売に協力することにした。

○協議事項は、以下のとおり、承認、決定した。

1. 平成19年度新名誉会員の推戴に関する件

長村理事長より、平成19年度新名誉会員推戴者名簿(34名)が諮られた。協議の結果、原案のとおり承認された。総会に諮ることにした。

2. 平成18年度新入会員の承認の件

長村理事長より、平成18年度新入会員名簿下期(平成18年11月1日~平成19年2月28日)分(44名)が諮られた。協議の結果、原案のとおり決定した。

3. 病気腎移植の件

標記案件につき長村理事長より、日本移植学会からの文書の説明があった。すなわち病気腎移植の問題では、3月末に5学会が統一見解を出すとのマスコミ報道の中で、5学会に日本病理学会が含まれているとのことであったが、当初から5学会には含まれておらず、そのことは日本移植学会に確認した。このたびあらためて参加するかどうか日本移植学会から諮問された。宇和島徳洲会病院の専門医委員である井藤久雄病理学会倫理委員長や、該当の病院の調査委員会などに委員として参加している理事の意見もあり、病理診断に関してのコメントはできるが、移植に関しては踏み込んでコメントできないとの意見が大勢であった。それにより、専門的な立場で協力はするが統一見解には参加しない旨を移植学会に回答することとした。

◇**会員総会**：平成19年3月14日（水）に大阪国際会議場にて、正会員3,803名のうち1,922名（うち委任状出席者1,771名）の出席を得て開催された。議長に青笹克之会長を選び議事を進めた。議事録署名人には、出席者を代表して向井 清（東京医科大学）、野々村昭孝（奈良県立医科大学）の両会員が指名された。

○**報告事項**

長村理事長より、2月12日の理事会および3月12日の理事会での報告事項および両理事会での審議決定事項について報告

があった（前記述）。

○協議事項

1. 新名誉会員の推戴に関する件

長村義之理事長より、平成19年度新名誉会員推戴者名簿（34名）が諮られた。

協議の結果、原案のとおり決定した。

2. 新学術評議員の承認の件

長村義之理事長より、平成19年度新学術評議員名簿（31名）が諮られた。

協議の結果、原案のとおり決定した。

3. 役員選挙規定に関する件

長村義之理事長より、役員（理事 監事）の規定条項変更について、理事会を経た提案が諮られた。定款施行細則（第3章役員の選任 第10条）において、旧「役員（理事 監事）」は、就任時年度内の年齢が満63歳以下の者とする」を、新「役員（理事 監事）」は、就任時の年齢が満63歳以下の者とする」に変更する件は、協議の結果、原案のとおり決定した。

◇定款細則の改定について

役員（理事 監事）の定年に関する定款細則について、理事会および総会（平成19年3月14日）にて承認されたので以下に掲載する。この細則は平成19年3月14日制定・施行される。

定款施行細則（第3章役員の選任 第10条）

旧 役員（理事 監事）は、就任時年度内の年齢が満63歳以下の者とする。

新 役員（理事 監事）は、就任時の年齢が満63歳以下の者とする。

◇新名誉会員の推戴について：平成19年度における新名誉会員は、下記の34名が推戴された。（ABC順）

足達 敏博	秦 順一	神代 正道	須田 耕一
荒川 正博	今井 重信	小西二三男	鈴木 恒道
栗井 通泰	伊藤 悦男	松陰 宏	竹内 純
衛藤 光明	岩政 輝男	三浦 妙太	津田 暢夫
藤倉 敏夫	岩田 隆子	森松 稔	辻 浩一
藤澤 泰憲	城下 尚	村尾 烈	若林 隆
濱口 欣一	菊池 正教	長嶋 和郎	渡辺 昌
浜崎 豊	北川 知行	中村 隆昭	原 満
小林 庸次	坂元 吾偉		

◇新学術評議員の決定について：平成19年度新学術評議員は、下記の31名に決定した。（ABC順）

知念 克也	藤吉 行雄	福村 由紀	後藤 朋子
羽尾 裕之	林 宏行	東 美智代	石井源一郎
泉 浩	久山 佳代	前西 修	松林 純
宮川 文	三好代志子	水谷 喜彦	棟方 哲

村上 雅人	永田 耕治	中守 真理	成田 道彦
大石 善丈	岡本 賢三	大城 久	佐藤 仁哉
白石 淳一	下川 怜子	武井 英博	竹内 保
東海林琢男	上原 剛	全 陽	

◇平成18年度学術奨励賞の授与について：

平成18年度学術奨励賞受賞者は、6名の応募者の中から選考により、以下の5名の会員に決定した。総会の席上で長村義之理事長から、各受賞者に賞状および記念品が授与された。

1. 「口腔癌の増殖、浸潤、転移に関する分子病理学的検討」：工藤 保誠（広島大学大学院医歯薬学総合研究科口腔顎顔面病理病態学研究室）
2. 「エピジェネティック制御機構の破綻による腫瘍発生機序の解明」：岡部 光邦（名古屋市立大学大学院臨床病態病理学）
3. 「滑膜肉腫における上皮分化機構に関する研究」：齋藤 剛（東京医科大学病理診断学講座）
4. 「癌抑制遺伝子 Fhit の機能解析、及び染色体脆弱部位と発癌との関連についての検討」：仙波 秀峰（神戸大学大学院医学系研究科外科病理学分野）
5. 「心血管イベントの発生機序の解明」：山下 篤（宮崎大学医学部病理学第1講座）

（受賞者の順はABC順）

◇学術研究賞（A演説）、B演説の選考について：

第53回（平成19年度）秋期特別総会学術研究賞演説（A演説）、B演説については、それぞれ16題、4題の応募があった。2月13日の学術委員会で審議し、投票の結果、8題、2題を選考した。本件は、同日の理事会において、同委員会案のとおり決定した。

学術研究賞（A演説）（応募順）

1. 自己免疫疾患におけるNF- κ Bシグナルを介したT細胞の制御機構：石丸 直澄（徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部口腔分子病態分野）
2. 破骨細胞分化を制御する分子機構の解析：北澤 理子（神戸大学大学院医学系研究科生体情報医学講座分子病理学分野）
3. エイズ関連悪性腫瘍の感染病理に関する研究：片野 晴隆（国立感染症研究所感染病理部）
4. 細胞間接着と極性形成の制御機構：千葉 英樹（札幌医科大学医学部病理学第二講座）
5. 肝内胆管癌の発生と進展機序の解明～腫瘍制御を目指して：相島 慎一（国家公務員共済組合連合会浜の町病院病理）
6. 乳癌の形態異常と悪性度診断：WAVE2-Arp2/3シグナルの亢進：岩屋 啓一（東京医科大学病理診断学講座）
7. がん間質形成過程に関わる線維芽細胞の生物学的ダイナミクス：石井源一郎（国立がんセンター東病院臨床開発

センター臨床腫瘍病理部)

8. 癌に対する免疫応答と免疫逃避機序の病理学的解析：鳥越 俊彦 (札幌医科大学医学部病理学第一講座)

B 演説 (応募順)

1. 壁細胞肥大と内分泌細胞の瀰漫性過形成を伴った胃の多発性カルチノイドの1例。新病型の提案：
大井 章史 (金沢大学大学院医学研究科分子細胞病理学)
小林 雅子, 勝田 省吾, 中西 功夫
2. 斜台部良性脊索細胞腫の考察：ecchordosis physaliphora sphenooccipitalis との関係について
山口 岳彦 (札幌医科大学病理診断学)

◇平成19年細胞診講習会：羽野 寛 (東京慈恵会医科大学) 世話人のもとで、平成19年3月3日(土)～4日(日)、東京慈恵会医科大学にて実施され、74名が受講した。講師は、水口國雄 (帝京大学附属溝口病院), 前田昭太郎 (日本医科大学付属多摩永山病院), 土屋眞一 (日本医科大学), 廣島健三 (千葉大学), 福田隆浩 (東京慈恵会医科大学), 鷹橋浩幸 (東京慈恵会医科大学) 清川貴子 (東京慈恵会医科大学), 濱田智美 (東京慈恵会医科大学), 二階堂孝 (東京慈恵会医科大学), の9名であった。

◆第25回病理専門医試験について：平成19年度の病理専門医試験は、平成19年7月28日(土), 7月29日(日)に東京医科歯科大学にて実施された。92名が受験して、69名が合格した(合格率75%)。合格者氏名ならびに病理専門医登録番号は、以下のとおりである (登録年月日：平成19年7月31日)。

平成19年度病理専門医合格者氏名

認定番号	氏名
2609	中山 順今
2610	真田 咲子
2611	古屋 充子
2612	木下 直江
2613	野口 寛子
2614	赤平 純一
2615	大沼 秀行
2616	大橋 寛嗣
2617	高橋青志郎
2618	山田 正俊
2619	瀧之上 史
2620	中山 大子
2621	矢嶋 信久
2622	有泉 泰
2623	北川 諭
2624	福島 裕子
2625	持塚 章芳
2626	板橋智映子
2627	上野 正樹
2628	望月 邦夫
2629	池田純一郎
2630	前田 尚子
2631	中井登紀子
2632	山内 美佐
2633	木村 徳宏
2634	澤田 星子
2635	橋本 光義
2636	永井 毅
2637	深澤 由里
2638	柴田 信光
2639	長田 盛典
2640	片岡 竜貴
2641	寺島 剛
2642	池原 譲
2643	河田 浩敏
2644	井上 理恵
2645	近藤 智子
2646	安田 恵美
2647	大橋 瑠子
2648	岩場 晶子

2649	山本 雅大	2664	中野 雅貴
2650	河内 香江	2665	塩野さおり
2651	小倉加奈子	2666	谷野美智枝
2652	森 弘樹	2667	百瀬 修二
2653	久保田佳奈子	2668	平塚 拓也
2654	伊東 干城	2669	清水 章
2655	市橋 亮一	2670	青木 茂久
2656	刃刀しのぶ	2671	伊達 由子
2657	竹村しづき	2672	河野 文彦
2658	三宅 孝佳	2673	大塚 紀幸
2659	奥寺 康司	2674	三浦 圭子
2660	松田 葉月	2675	森 清
2661	小森 浩章	2676	上村 隆
2662	三戸 聖也	2677	平野 和彦
2663	小野 ゆり		

◇第15回口腔病理専門医試験について：平成19年度の口腔病理専門医試験は、第25回病理専門医試験と同日、同会場で行われた。4名が受験して3名が合格した(合格率75%)。合格者氏名並びに口腔病理専門医登録番号は、以下のとおりである (登録年月日：平成19年7月31日)。

平成19年度口腔病理専門医合格者氏名

口腔認定番号	氏名
133	木村 晃大
134	岩科 雅範
135	松本 直行

◇病理専門医・口腔病理専門医の資格の更新について：資格更新が認められた病理専門医・口腔病理専門医は、以下のとおりである。

1. 病理専門医資格更新者氏名

第4回 認定 116名

更新期間 平成19年(2007年)4月1日から5年間

認定番号	氏名
827	今井 俊介
828	由谷 親夫
829	村尾 眞一
831	福永 真治
832	長谷川章雄
833	浅野 重之
834	宮崎 純一
835	角田 力弥
836	阿部 正文
838	村山 寛
839	中西 敬介
840	水上 勇治
843	岡 邦行
845	山本 雅博
847	土屋 眞一
848	赤木 制二
849	後藤 幹雄
850	西野 栄世
851	中川 仁
852	戸田 隆義
853	桑原竹一郎
854	石 和久
855	方山 揚誠
856	調 輝男
858	吉原 渡
859	広瀬 幸子
860	井上 達
861	中西 和夫
862	亀田 典章
866	松本 和基

867	羽野 寛	930	玉井 誠一	1253	森木 利昭	1279	三浦 和典
868	富地 信和	931	橋本 洋	1254	岡田 仁克	1280	塩津 英俊
869	大嶋 正人	933	横田 忠明	1255	八木橋操六	1283	笹原 正清
870	岡野 匡雄	934	山下 吉美	1256	中島 明彦	1284	北川 昌伸
871	岡田 英吉	936	岩下 明德	1257	濱田 哲夫	1286	谷山 清己
872	塩川 章	937	豊島 里志	1258	矢島美穂子	1287	小川 晃
873	沼本 敏	938	佐藤 慎吉	1259	竹屋 元裕	1288	流田 智史
874	螺良 愛郎	939	川原 穰	1261	佐々木なおみ	1289	石亀 廣樹
875	米澤 傑	940	菅野 勇	1262	川端 健二	1290	橋本 和明
876	河端 美則	942	張ヶ谷健一	1263	溝渕 光一	1291	福田 剛明
878	田久保海誉	944	榎本 克彦	1264	嶋本 文雄	1292	甲田 賢治
879	土橋 康成	945	小橋陽一郎	1267	松野 寧子	1293	若狭 研一
881	小俣 好作	946	森 一郎	1268	海上 雅光	1294	丹野 正隆
882	瀧 和博	947	勝田 省吾	1270	吉田 幸子	1295	佐藤 英章
884	中嶋 安彬	948	島村 和男	1271	瀧本 雅文	1296	佐藤 隆夫
885	堤 寛	950	下山 潔	1272	樋野 興夫	1298	植村 芳子
886	岡田 保典	953	江島 栄	1273	佐々木 惇	1299	和知 栄子
887	高原 耕	954	亀田 陽一	1274	上田 善彦	1300	高橋 玲
889	若木 邦彦	955	佐野 仁勇	1275	名方 保夫	1303	鈴木 恵子
890	布山 繁美	956	雑賀 興慶	1276	林 祥剛	1304	鈴木 高祐
892	増田 弘毅	959	水口 國雄	1277	岸本 宏志	1305	前多 松喜
893	村上 榮	960	高橋 達郎	1278	中村 栄男	1306	富永 邦彦
895	根本 則道	961	林 逸郎				
897	小野 巖	962	三輪 淳夫				
899	倉持 茂	964	田口 尚				
901	山田 和昭	967	上野 洋男				
903	福本 学	971	中山 雅弘				
904	徳田 忠昭	972	大谷 明夫				
905	福田 利夫	973	君塚 五郎				
907	北村 均	974	中野 雅行				
908	森 秀樹	975	柳澤 昭夫				
910	馬淵 基樹	976	正和 信英				
911	野々村昭孝	978	笹栗 靖之				
912	中島 孝	979	関川 進				
914	井藤 久雄	980	吉田カヅ江				
915	宮本 一雄	981	岡田 收司				
917	藤井 雅彦	982	川並 汪一				
918	田中 卓二	983	辻本 志朗				
919	川井 俊郎	986	青木 幹雄				
921	糸山 進次	990	増田 高行				
925	栗原 憲二	991	上坂 佳敬				
927	居石 克夫	992	小久保 武				
929	秋草文四郎	996	藤盛 孝博				

第9回(第4回試験) 認定 46名

更新期間 平成19年(2007年)4月1日から5年間

認定番号 氏名

1250 徳留 隆博

1251 山鳥 一郎

第14回(第9回試験) 認定 52名

更新期間 平成19年(2007年)4月1日から5年間

認定番号 氏名

1565	下 正宗	1593	大橋 健一
1566	太田 善夫	1594	寺田 信行
1567	小西 登	1595	蛭田 啓之
1568	石田 剛	1596	澤田 典均
1569	新垣 有正	1597	菅井 有
1570	藤田 眞幸	1598	絹川 典子
1571	加藤 元一	1600	小西 英一
1573	森谷 卓也	1601	堤 雅弘
1574	立山 尚	1602	中西 幸浩
1576	中川 温子	1604	小野 伸高
1577	九嶋 亮治	1605	今 信一郎
1578	勝田 浩司	1606	能登原憲司
1579	佐野 暢哉	1607	村田 晋一
1580	山田 健人	1608	坂井田紀子
1581	池田 栄二	1609	武内 利直
1582	田村 浩一	1610	岡本 茂
1583	行岡 直哉	1612	伊藤 裕司
1584	土橋 洋	1613	渥美伸一郎
1585	村上 一宏	1614	河合 潤
1586	大島 孝一	1615	宮石 理
1589	清水 道生	1616	中山 敦雄
1592	増永 敦子	1617	石原 法子

1618	岩渕	三哉	1623	鈴木	博義
1619	鈴木	良夫	1624	野田	裕
1621	岩崎	啓介	1625	川口	誠
1622	勝山	栄治	1626	北澤	荘平

第19回(第14回試験) 認定 71名

更新期間 平成19年(2007年)4月1日から5年間

認定番号	氏名	認定番号	氏名
1871	長谷川 匡	1911	清久 泰司
1872	井上 健	1912	岩屋 啓一
1873	柴田 亮行	1913	宮沢 善夫
1874	三枝 信	1914	藤田 葉子
1875	星 暢夫	1916	澁谷 誠
1876	後藤田裕子	1917	小泉 宏隆
1877	森光 洋介	1918	福嶋 敬直
1878	中澤 功	1920	中岡 伸悟
1879	斉藤 直敏	1921	川島 篤弘
1880	福島 純一	1922	村山 寿彦
1883	木野 茂生	1923	鄭 子文
1884	南條 博	1924	沖野 毅
1885	伴 聡	1925	竹川 義則
1886	長尾 俊孝	1926	筑後 孝章
1888	田中 正則	1927	久保起与子
1889	尾崎 大介	1928	西阪 隆
1890	黒住 昌史	1929	石田 康生
1891	平岡 伸介	1930	北村 幸郷
1892	渡辺 昌俊	1931	星 サユリ
1893	原田 徹	1932	谷田部 恭
1894	小松 一弘	1933	酒井 優
1895	西澤 恭子	1934	比島 恒和
1896	島崎 英幸	1935	内ヶ崎新也
1897	稲垣 宏	1936	平塚 素子
1898	宮崎 龍彦	1938	石井源一郎
1899	真能 正幸	1939	猪狩 亨
1900	佐々木 豊	1940	西田 尚樹
1901	大原 信哉	1941	山本智理子
1902	杉山 達朗	1942	小賀 厚徳
1903	高橋 秀史	1943	石澤 伸
1904	田代 幸恵	1944	霧生 孝弘
1906	荒木 章伸	1945	平林 紀男
1907	濱田 新七	1946	迫間 隆昭
1908	川本 雅司	1947	細根 勝
1909	寺村 一裕	1949	羽鳥 努
1910	藤井 義幸		

第24回(第19回試験) 認定 60名

更新期間 平成19年(2007年)4月1日から5年間

認定番号	氏名	認定番号	氏名
2237	棚橋 千里	2267	塚本 徹哉
2238	尾島 英知	2268	金子 真弓
2239	竹内 保	2269	堀之内道子
2240	中村樹美枝	2270	笠井 孝彦
2241	笠島 里美	2271	大原関利章
2242	岡本 純佳	2272	朝元 誠人
2243	高橋 芳久	2273	岸本 充
2244	井尻理恵子	2274	寺戸 雄一
2245	田口 周平	2275	島田 志保
2246	濱田 智美	2276	田口 健一
2247	河野 尚美	2278	川名 秀忠
2248	米増 博俊	2279	稲垣 朋子
2249	井下 尚子	2280	山根 徹
2250	松川 昭博	2281	島田 哲也
2251	小田島 肇	2282	稲留 征典
2252	馬場 正道	2283	竹内 賢吾
2253	武井 英博	2284	氏平 伸子
2254	緒形 真也	2285	橋立 英樹
2255	棟方 哲	2286	宮谷 克也
2256	伊原 文恵	2287	関根 茂樹
2257	柴田 龍弘	2288	明石 高明
2258	浅井 昌美	2289	菊地 和徳
2259	大倉 康男	2290	三浦千砂子
2260	岸 宏久	2291	市村 浩一
2261	浦野 誠	2292	島尾 義也
2262	橘 真由美	2293	太田 雅弘
2263	林 宏行	2294	下村 龍一
2264	加藤 光保	2295	出張 玲子
2265	高城 千彰	2296	三浦 一郎
2266	廣瀬 善信	2297	太田 聡

第3回 認定 13名

更新期間 平成19年(2007年)4月1日から4年間

認定番号	氏名	認定番号	氏名
535	石川 義磨	764	下川 伶子
589	山下 裕人	765	田中 智之
603	森田 豊彦	775	打越 敏之
605	水無瀬 昂	779	樋口 正身
634	羽田 悟	785	森山 昌樹
641	甲賀 新	810	実藤 隼人
686	白根 博文		

第7回(第2回試験) 認定 1名

更新期間 平成19年(2007年)4月1日から3年間
認定番号 氏名
1183 東原 進

第13回(第8回試験) 認定 1名

更新期間 平成19年(2007年)4月1日から4年間
認定番号 氏名
1538 川端 晃幸

第22回(第17回試験) 認定 2名

更新期間 平成19年(2007年)4月1日から3年間
認定番号 氏名
2108 酒々井夏子 2156 伊東 恭子

第23回(第18回試験) 認定 4名

更新期間 平成19年(2007年)4月1日から4年間
認定番号 氏名
2165 村瀬 貴幸 2234 パンナチエート
2196 及川 浩樹 エーカポット
2211 仙波 秀峰

2. 口腔病理専門医資格更新者氏名**第4回 認定 8名**

更新期間 平成19年(2007年)4月1日から5年間
認定番号 氏名
58 岡村 和彦 63 山崎 章
59 土井田 誠 64 安藤 紀昭
60 櫻井 一成 65 相田 順子
61 清水 進一 67 前田 初彦

第9回(第4回試験) 認定 3名

更新期間 平成19年(2007年)4月1日から5年間
認定番号 氏名
85 佐々木 優 87 村松 敬
86 柴田 敏也

第14回(第9回試験) 認定 3名

更新期間 平成19年(2007年)4月1日から5年間
認定番号 氏名
111 松坂 賢一 113 美島 健二
112 藤田 修一

◆平成18年度認定病院・登録施設(第29回)の審査について:
認定施設,登録施設としての新規の申請は,128件,24件であった。審査の結果,それぞれ125件,24件が承認された。認定(登録)期間は,平成18年4月1日から平成20年3月31日までである。

(1) 認定施設

認定番号 病院名
1026 市立釧路総合病院
2037 財団法人大原総合病院
3090 大和市立病院
3132 国際医療福祉大学附属三田病院
3133 国際医療福祉大学附属熱海病院
4058 公立学校共済組合東海中央病院
4079 医療法人立川メディカルセンター立川総合病院
4080 総合病院南生協病院
5026 淀川キリスト教病院
5081 大阪府済生会千里病院
6009 独立行政法人国立病院機構四国がんセンター
6042 福山市民病院
6043 広島県厚生農業共同組合連合会尾道総合病院
7038 独立行政法人国立病院機構九州医療センター

認定番号 病院名

1901 旭川医科大学病院
1902 北海道大学病院
1903 札幌医科大学附属病院
2901 弘前大学医学部附属病院
2902 秋田大学医学部附属病院
2903 岩手医科大学附属病院
2904 東北大学病院
2905 山形大学医学部附属病院
2906 福島県立医科大学附属病院
3901 自治医科大学附属病院
3902 獨協医科大学病院
3903 群馬大学医学部附属病院
3904 筑波大学附属病院
3905 埼玉医科大学病院
3906 防衛医科大学校病院
3907 千葉大学医学部附属病院
3908 順天堂大学医学部附属順天堂医院
3909 慶応義塾大学病院
3910 日本大学医学部附属板橋病院
3911 日本医科大学附属病院
3912 東京医科大学病院
3913 東京慈恵会医科大学附属病院
3914 東京女子医科大学病院
3915 東邦大学医療センター大森病院
3916 昭和大学病院
3917 東京医科歯科大学医学部附属病院
3918 東京大学医学部附属病院
3919 杏林大学医学部附属病院
3920 帝京大学医学部附属病院
3921 聖マリアンナ医科大学病院

3922 北里大学病院
 3923 東海大学医学部付属病院
 3924 横浜市立大附属病院
 4901 浜松医科大学医学部附属病院
 4902 新潟大学歯学部総合病院
 4903 山梨大学医学部附属病院
 4904 信州大学医学部附属病院
 4905 富山大学附属病院
 4906 金沢大学医学部附属病院
 4907 金沢医科大学病院
 4908 福井大学医学部附属病院
 4909 名古屋大学医学部附属病院
 4910 名古屋市立大学病院
 4911 愛知医科大学病院
 4912 藤田保健衛生大学病院
 4913 岐阜大学医学部附属病院
 4914 三重大学医学部附属病院
 4915 奈良県立医科大学附属病院
 4916 滋賀医科大学医学部附属病院
 5901 京都大学医学部附属病院
 5902 京都府立医科大学附属病院
 5903 関西医科大学附属滝井病院
 5904 大阪医科大学附属病院
 5905 大阪市立大学医学部附属病院
 5906 大阪大学医学部附属病院
 5907 近畿大学医学部附属病院
 5908 和歌山県立医科大学附属病院
 5909 兵庫医科大学病院
 5910 神戸大学医学部附属病院
 6901 徳島大学医学部歯学部附属病院
 6902 香川大学医学部附属病院
 6903 高知大学医学部附属病院
 6904 愛媛大学医学部附属病院
 6905 岡山大学医学部・歯学部附属病院
 6906 川崎医科大学附属病院
 6907 広島大学病院
 6908 鳥取大学医学部附属病院
 6909 島根大学医学部附属病院
 6910 山口大学医学部附属病院
 7901 産業医科大学病院
 7902 久留米大学病院
 7903 九州大学病院
 7904 福岡大学病院
 7905 佐賀大学医学部附属病院
 7906 熊本大学医学部附属病院
 7907 長崎大学医学部・歯学部附属病院
 7908 大分大学医学部附属病院
 7909 宮崎大学医学部附属病院

7910 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院
 7911 琉球大学医学部附属病院

認定番号 病院名

3925 東京医科大学霞ヶ浦病院
 3926 獨協医科大学越谷病院
 3927 埼玉医科大学総合医療センター
 3928 自治医科大学附属大宮医療センター
 3929 帝京大学ちば総合医療センター
 3930 順天堂大学医学部附属順天堂浦安病院
 3931 東京慈恵会医科大学附属柏病院
 3932 東邦大学医療センター佐倉病院
 3933 日本医科大学千葉北総病院
 3934 駿河台日本大学病院
 3935 東京慈恵会医科大学附属第三病院
 3936 東邦大学医療センター大橋病院
 3937 東京慈恵会医科大学附属青戸病院
 3938 東京女子医科大学東医療センター
 3939 日本医科大学多摩永山病院
 3940 日本大学医学部付属練馬光が丘病院
 3941 東京医科大学八王子医療センター
 3942 順天堂大学医学部附属順天堂江東東京高齢者医療センター
 3943 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院
 3944 昭和大学藤が丘病院
 3945 横浜市立大学附属市民総合医療センター
 3946 日本医科大学武蔵小杉病院
 3947 北里大学東病院
 3948 帝京大学医学部附属溝口病院
 3949 昭和大学横浜市北部病院
 4917 順天堂大学医学部附属静岡病院
 5911 近畿大学医学部堺病院
 5912 近畿大学医学部奈良病院
 6911 川崎医科大学附属川崎病院
 7912 福岡大学筑紫病院

(2) 登録施設

登録番号 病院名

1029 医療法人彰和会北海道消化器科病院
 1030 北海道社会事業教会小樽病院
 2029 JA 秋田厚生連秋田組合総合病院
 3080 国立療養所多磨全生園
 3111 財 ライフ・エクステンション研究所附属永寿総合病院
 4091 金沢市立病院
 4096 公立松任石川中央病院
 4097 南砺市民病院
 5081 大阪府済生会茨木病院
 5082 兵庫県立加古川病院
 6015 徳島市民病院

6034 独立行政法人労働者健康福祉機構山陰労災病院
 6051 山口県済生会下関総合病院
 6052 社会保険下関厚生病院
 7055 独立行政法人国立病院機構小倉病院
 7056 医療法人社団高邦会高木病院
 7057 長崎県済生会病院
 7058 長崎県立島原病院

登録番号 病院名

3901 東京大学医科学研究所附属病院
 3902 東海大学医学部附属東京病院
 3903 東海大学医学部附属八王子病院
 3904 東海大学医学部附属大磯病院
 4901 藤田保健衛生大学坂元種報徳會病院
 6901 関西医科大学附属枚方病院

◇平成19年度認定病院・登録施設の更新について：認定病院・登録施設としての更新申請は、審査の結果、それぞれ184施設および89施設の更新が認められた。認定（登録）期間は、平成19年4月1日から平成21年3月31日までである。

平成19年度病理専門医研修施設（認定施設）更新機関
 （第2, 4, 6, 8, 10, 12, 14, 16, 18, 20, 22, 24, 26, 28 184施設）

期間2年間 平成19年4月1日～平成21年3月31日

第2回 認可（13施設）

認定番号 施設名

2005 山形県立中央病院
 2006 (財) 竹田総合病院
 3019 埼玉県立がんセンター
 3020 (財) 癌研究会明病院
 3021 JR 東京総合病院
 3022 国家公務員共済組合連合会虎の門病院
 4007 新潟市民病院
 4008 名古屋第一赤十字病院
 4009 独立行政法人国立病院機構金沢医療センター
 5009 大阪府立急性期・総合医療センター
 5010 独立行政法人労働者健康福祉機構大阪労災病院
 7002 九州厚生年金病院
 7003 独立行政法人国立病院機構九州がんセンター

第4回 認可（2施設）

認定番号 施設名

3028 日本赤十字社医療センター
 4010 長野県厚生農業協同組合連合会佐久総合病院

第6回 認可（6施設）

認定番号 施設名

3035 越谷市立病院

3037 社会保険船橋中央病院
 3039 総合病院国保旭中央病院
 3040 東京都立清瀬小児病院
 4015 長野赤十字病院
 5017 奈良県立奈良病院

第8回 認可（9施設）

認定番号 施設名

3045 公立学校共済組合関東中央病院
 3046 東京都立府中病院
 4017 静岡県立総合病院
 4018 社会保険中京病院
 5019 (財) 日本生命済生会附属日生病院
 5020 兵庫県立西宮病院
 5021 兵庫県立淡路病院
 6017 広島市立安佐市民病院
 7009 佐賀県立病院好生館

第10回 認可（10施設）

認定番号 施設名

3002 群馬県立がんセンター
 3052 伊勢崎市民病院
 3054 東京都済生会中央病院
 4024 長岡赤十字病院
 4025 富士市立中央病院
 4026 聖隷福祉事業団総合病院聖隷浜松病院
 4027 富山県立中央病院
 5012 (財) 住友病院
 5025 大阪府立母子保健総合医療センター
 7011 北九州市立医療センター

第12回 認可（10施設）

認定番号 施設名

3060 (株) 日立製作所日立総合病院
 3061 東京歯科大学市川総合病院
 3062 東京都立墨東病院
 3063 公立昭和病院
 3064 恩賜財団済生会横浜市南部病院
 4030 公立陶生病院
 6019 松山赤十字病院
 7012 特定医療法人雪の聖母会聖マリア病院
 7013 熊本市立熊本市民病院
 7014 宮崎県立宮崎病院

第14回 認可（11施設）

認定番号 施設名

2015 (財) 温知会会津中央病院
 3069 茨城県立中央病院・地域がんセンター

3070 医療法人社団千葉県勤労者医療協会船橋二和病院
 3071 東京都立大塚病院
 3072 東京警察病院
 3073 医療法人社団厚生会立川相互病院
 4034 藤枝市立総合病院
 4035 松波総合病院
 4036 三重県厚生農業協同組合連合会鈴鹿中央総合病院
 5033 NTT 西日本大阪病院
 6021 広島赤十字・原爆病院

第16回 認可 (7施設)

認定番号 施設名

1010 JA 北海道厚生連旭川厚生病院
 2016 山形市立病院済生館
 2017 盛岡赤十字病院
 3076 独立行政法人労働者健康福祉機構東京労災病院
 3077 独立行政法人労働者健康福祉機構横浜労災病院
 5037 医療法人医仁会武田総合病院
 7017 大牟田市立総合病院

第18回 認可 (13施設)

認定番号 施設名

3079 総合病院土浦協同病院
 3080 さいたま市立病院
 3081 国立がんセンター東病院
 3082 国家公務員共済組合連合会横浜栄共済病院
 4016 総合病院名古屋第二赤十字病院
 4042 黒部市民病院
 4043 豊橋市民病院
 4045 小牧市民病院
 5040 大阪市立総合医療センター
 5041 独立行政法人労働者健康福祉機構関西労災病院
 6023 島根県立中央病院
 6024 高松赤十字病院
 7019 佐世保市立総合病院

第20回 認可 (4施設)

認定番号 施設名

3086 財団法人東京都保健医療公社(東京都立)荏原病院
 4047 聖隷三方原病院
 5043 市立岸和田市民病院
 5044 独立行政法人国立病院機構神戸医療センター

第22回 認可 (35施設)

認定番号 施設名

1011 旭川赤十字病院
 1012 KKR 札幌医療センター
 2021 独立行政法人国立病院機構弘前病院

2022 独立行政法人労働者健康福祉機構東北労災病院
 2023 仙台市立病院
 2024 東北厚生年金病院
 2025 石巻赤十字病院
 2026 秋田赤十字病院
 3048 さいたま赤十字病院
 3051 横須賀市立市民病院
 3092 茨城県済生会水戸済生会総合病院
 3093 独立行政法人労働者健康福祉機構鹿島労災病院
 3096 (財)東京都保健医療公社大久保病院
 3097 医療法人財団河北総合病院
 4003 愛知県がんセンター
 4005 富山市立富山市民病院
 4019 岐阜県立多治見病院
 4050 社団法人山梨勤労者医療協会甲府共立病院
 4051 諏訪赤十字病院
 4054 医療法人豊田会刈谷豊田総合病院
 4055 独立行政法人国立病院機構三重中央医療センター
 5022 和泉市立病院
 5024 市立豊中病院
 5047 社会福祉法人恩賜財団済生会滋賀県病院
 5048 東大阪市立総合病院
 5049 公立豊岡病院
 5051 日本赤十字社和歌山医療センター
 6008 香川県立中央病院
 6025 松江赤十字病院
 6026 独立行政法人労働者健康福祉機構香川労災病院
 6027 徳島赤十字病院
 7008 鹿児島市立病院
 7018 国家公務員共済組合連合会浜の町病院
 7021 福岡赤十字病院
 7022 独立行政法人国立病院機構熊本医療センター

第24回 認可 (12施設)

認定番号 施設名

1006 独立行政法人国立病院機構北海道がんセンター
 2029 米沢市立病院
 3104 独立行政法人国立病院機構栃木病院
 3106 桐生厚生総合病院
 4059 独立行政法人国立病院機構松本病院
 4060 済生会新潟第二病院
 5007 兵庫県立尼崎病院
 5063 社会保険神戸中央病院
 5064 神戸市立西市民病院
 5065 滋賀県立成人病センター
 7025 公立八女総合病院
 7026 医療法人白十字会佐世保中央病院

第26回 認可 (24 施設)

認定番号 施設名

- 1023 北海道立小児総合保健センター
 1024 医療法人溪仁会手稲溪仁会病院
 2032 青森市民病院
 3047 国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院
 3094 医療法人社団東光会戸田中央総合病院
 3111 利根保健生活協同組合利根中央病院
 3112 独立行政法人国立病院機構水戸医療センター
 3113 埼玉県済生会川口総合病院
 3114 社団法人北里研究所北里研究所病院
 3115 社会福祉法人慈生会慈生会病院
 3116 日本私立学校振興・共済事業団東京臨海病院
 3117 川崎市立井田病院
 3118 財団法人神奈川県警友会けいゆう病院
 4066 愛知県厚生農業協同組合連合会昭和病院
 4067 新潟県立新発田病院
 4068 高岡市民病院
 5068 彦根市立病院
 5069 医療法人徳洲会宇治徳洲会病院
 5070 医療法人社団洛和会洛和会音羽病院
 5072 独立行政法人国立病院機構近畿中央胸部疾患センター
 5073 独立行政法人労働者健康福祉機構和歌山労災病院
 6034 高松市民病院
 7032 千鳥橋病院
 7033 医療法人社団新日鐵八幡記念病院

第28回 認可 (28 施設)

認定番号 施設名

- 1009 社会福祉法人函館厚生院函館五稜郭病院
 2036 みやぎ県南中核病院
 3123 公立藤岡総合病院
 3124 深谷赤十字病院
 3125 埼玉社会保険病院
 3126 埼玉県立小児医療センター
 3127 財団法人筑波メディカルセンター筑波メディカルセンター病院
 3128 独立行政法人国立病院機構千葉医療センター
 3129 浦安市市川市市民病院組合浦安市市川市市民病院
 3130 (財) 東京都保健医療公社多摩南部地域病院
 3131 石心会川崎幸病院
 4020 独立行政法人労働者健康福祉機構中部労災病院
 4072 富山赤十字病院
 4073 富山県済生会高岡病院
 4074 JA 長野厚生連小諸厚生総合病院
 4075 静岡市立清水病院
 4076 愛知県厚生農業協同組合連合会海南病院
 4077 半田市立半田病院
 4078 稲沢市民病院

- 5050 医療法人社団新日鐵広畑病院
 5079 医療法人生長会ベルランド総合病院
 5080 国家公務員共済組合連合会大手前病院
 6037 徳島県立中央病院
 6038 鳥取市立病院
 6039 福山市医師会総合健診センター
 6040 独立行政法人国立病院機構東広島医療センター
 6041 独立行政法人国立病院機構広島西医療センター
 7037 社会福祉法人恩賜財団済生会支部福岡県済生会八幡総合病院

**平成19年度病理専門医研修施設(登録施設)更新機関
(第2, 4, 6, 8, 10, 12, 14, 16, 18, 20, 22, 24, 26, 28 89 施設)**

期間2年間 平成19年4月1日～平成21年3月31日

第2回 認可 (5 施設)

登録番号 施設名

- 3028 総合病院厚生中央病院
 3029 川崎医療生活協同組合川崎協同病院
 4022 静岡赤十字病院
 4024 浜松赤十字病院
 5018 (社) 明石市医師会立明石医療センター

第4回 認可 (4 施設)

登録番号 施設名

- 5024 公立南丹病院
 6011 水島協同病院
 6012 高知赤十字病院
 7018 宮崎社会保険病院

第5回 認可 (7 施設)

登録番号 施設名

- 2011 秋田県立脳血管研究センター
 3036 医療法人社団順江会江東病院
 4002 市立島田市民病院
 4028 市立岡谷病院
 4030 高山赤十字病院
 7021 公立学校共済組合九州中央病院
 7025 総合病院鹿児島生協病院

第8回 認可 (3 施設)

登録番号 施設名

- 3055 横浜市立みなと赤十字病院
 5034 西宮市立中央病院
 6016 下関市立中央病院

第10回 認可 (5 施設)

登録番号 施設名

- 3058 神奈川県厚生農業協同組合連合会伊勢原協同病院

3060 神奈川県立循環器呼吸器病センター
 4042 名古屋記念病院
 5036 市立吹田市民病院
 7030 鹿児島市医師会病院

第12回 認可 (1施設)

登録番号 施設名

4047 医療法人(社団) 中信勤労者医療協会松本協立病院

第14回 認可 (7施設)

登録番号 施設名

2016 津軽保健生活協同組合健生病院
 5044 独立行政法人労働者健康福祉機構神戸労災病院
 5045 西脇市立西脇病院
 6018 岡山医療生活協同組合総合病院岡山協立病院
 6019 財団法人永頼会松山市民病院
 7033 国家公務員共済組合連合会新小倉病院
 7034 独立行政法人労働者健康福祉機構熊本労災病院

第16回 認可 (4施設)

登録番号 施設名

4058 愛知県厚生農業協同組合連合会加茂病院
 7037 福岡市立こども病院・感染症センター
 7038 独立行政法人国立病院機構福岡東医療センター
 7039 医療法人同心会古賀総合病院

第18回 認可 (7施設)

登録番号 施設名

3078 東芝病院
 4064 長野県立こども病院
 4065 土岐市立総合病院
 5049 医療法人川崎病院
 6025 独立行政法人国立病院機構福山医療センター
 6029 済生会今治病院
 7040 鹿児島県立大島病院

第20回 認可 (1施設)

登録番号 施設名

4073 済生会松阪総合病院

第22回 認可 (11施設)

登録番号 施設名

1018 苫小牧市立総合病院
 2010 岩手県立宮古病院
 4076 独立行政法人国立病院機構長野病院
 4077 医療法人徳洲会名古屋徳洲会総合病院
 5060 公立甲賀病院
 5065 医療法人きっこう会総合病院多根病院

6002 国家公務員共済組合連合会広島記念病院
 6037 独立行政法人国立病院機構善通寺病院
 6038 社会福祉法人済生会松山病院
 6039 済生会西条病院
 6040 愛媛県立今治病院

第24回 認可 (7施設)

登録番号 施設名

1021 江別市立病院
 1022 滝川市立病院
 3089 国保匠瑳市民病院
 3091 神奈川県厚生農業協同組合連合会相模原協同病院
 4083 磐田市立総合病院
 5068 社会福祉法人恩賜財団済生会京都府病院
 6041 独立行政法人国立病院機構高知病院

第26回 認可 (14施設)

登録番号 施設名

1023 独立行政法人労働者健康福祉機構岩見沢労災病院
 2025 市立秋田総合病院
 2027 公立気仙沼総合病院
 3096 社会保険群馬中央総合病院
 3097 群馬県済生会前橋病院
 3099 社会保険山梨病院
 4087 社会福祉法人聖霊会聖霊病院
 4088 医療法人偕行会名古屋共立病院
 4090 国家公務員共済組合連合会舞鶴共済病院
 5074 独立行政法人国立病院機構滋賀病院
 5075 医療法人宝生会 PL 病院
 5077 鐘紡記念病院
 6044 公立学校共済組合中国中央病院
 6045 財団法人津山慈風会津山中央病院

第28回 認可 (13施設)

登録番号 施設名

1025 名寄市立総合病院
 1026 総合病院北見赤十字病院
 1027 JA 北海道厚生連帯広厚生病院
 1028 医療法人徳洲会札幌東徳洲会病院
 2028 福島県厚生農業協同組合連合会白河厚生総合病院
 3100 独立行政法人労働者健康福祉機構千葉労災病院
 3101 社団法人地域医療振興協会横須賀市立うわまち病院
 4094 伊那中央病院
 4095 独立行政法人労働者健康福祉機構旭労災病院
 5080 医療法人景岳会南大阪病院
 6049 財団法人倉敷成人病センター
 7047 宮崎県立日南病院
 7054 大分赤十字病院

◇臨時会員総会：平成19年5月22日（火）に学士会分館（東京）にて、正会員3,884名のうち1,990名（うち委任状出席者1,977名）の出席を得て開催された。議長に青笹克之会長を選び議事を進行した。議事録署名人には、出席者を代表して糸山進次（埼玉医科大学総合医療センター）、澤井高志（岩手医科大学）の両会員が指名された。

○報告事項

1. 理事長報告

- (1) 5月11日開催された厚生労働省「診療行為に関連した死亡の死因究明等のあり方に関する課題と検討の方向性」を病理学会として傍聴した。
- (2) 5月21日に開催された医道審議会医道分科会診療科名標榜部会にて厚生労働省から診療科名の整理に関する“案”が示された。整理された基礎診療科目26種の中に病理診断科（臨床検査科）が新規に提案されている。
- (3) 「診療行為に関連した死亡の死因究明等のあり方に関する課題と検討の方向性」についての厚生労働省のパブリックコメント募集に対し、意見を提出した（病理学会ホームページに掲載）。これに関連して、第3回死因究明制度等に関する検討会（6月8日）には深山副理事長が出席することになっている。
- (4) モデル事業運営委員会（4月18日）および説明会（4月23日）に出席した黒田理事より、現在51体が解剖されているとの報告があった。また、モデル事業運営委員会内に、1.の死因究明制度等に関する検討会と整合性をもたせるためのワーキンググループが設置されるとのことで、深山副理事長が委員として加わることになった。
- (5) 診療報酬については、内保連へ改定要望事項の提出をおこなった。稲山社会保険小委員会委員長より、今後の活動方針について報告があった。ワンデイパソロジーについて検討を始めており、これについてのアンケートを研修施設に対しておこなっている。
- (6) 4月16日、長村理事長が加藤雅志担当官（厚生労働省がん対策推進室）と面談をおこなった。バーチャルスコアの今後の活用について相談を受けている。
- (7) 2014年に向けてWHO ICD11を策定中であるがこれに病理学会からも委員を出せるよう口頭で担当官に要望している。
- (8) 国際交流委員会では、英国病理学会との交流については、日英で交互にシンポジウムを開催すること、同時に若手会員を派遣することなどが話し合われている。若手の派遣費用については、現在の国際交流事業の予算を使えるのではないかと考えている。
- (9) 教育委員会ワークショップは、9月23日（日）藤田保健衛生大学にて、テーマは「特色ある病理学教育について」を予定している。
- (10) ホームページ運営アシスタントの選定について広報委員

会より資料が提出され、委員会より推薦のあった「香取ゆき氏」に5月から依頼することとした。

- (11) 3月15日に開催の若手医師確保のための小委員会の報告があった。7月15日（東京ビッグサイト）のレジナビフェア参加に関連してパンフレットの作成をおこなう準備をしているとのことである。
- (12) 第1回診断病理サマーフェストの受講希望者へ、案内文や地図等を送付することになっている。現在までに138名の応募がある。第2回（平成20年）は「肺」をテーマに天理よろず相談所病院の小橋陽一郎先生にモデレータを依頼し、京都での開催を予定している。
- (13) 100周年記念事業については、準備会を6月ごろ開催の予定である。
- (14) 3月13日開催のプログラム推進委員会（青笹委員長）の報告があり、病理学会や関連研究会等がおこなっているセミナー等のリストを作成するべきとの提案があったので、事務局で対応することとした（専門医更新のクレジットを与えている会など）。
平成20年度の春の学術集会時の病理診断講習会のスケジュール案が、病理診断講習会委員会清水道生委員長より提案され、これを了承した。今後は病理診断講習会委員会の委員構成についても検討する必要があるとの意見が出されている。
春の病理診断講習会とIAPセミナーとの整合性等、今後の検討課題である。
- (15) 宿題報告候補は今年から他薦も可とすることから、応募のフォームを改訂し、7月会報に掲載するよう検討を始めた。
- (16) 病理学会カンファレンスは5回（平成20年）までは開催し、その後の開催は検討課題としている。
- (17) 今年度の専門医認定試験は、7月28日（土）・29日（日）に東京医科歯科大学にておこなわれる。これに関連して資格審査委員会と病理専門医制度運営委員会は5月15日（火）に開催され、合否判定の運営委員会は7月31日（火）に開催されることになっている。
- (18) 理事、理事長選挙については、選挙管理委員会を立ち上げた。

2. 病理科標榜の件

厚生労働省より提案されている病理診断科の標榜について、出席者より活発な意見が出された。今回は病理学会からの要望ではなく厚生労働省からの提案であるので、今後の進展を期待してみたいこととする。

3. 病理診断施設開設の件

出席者より開設の事例が紹介されたことに関連して、都道府県の保健所の対応、厚生労働省の対応等につき、意見が交換された。病理科標榜にも大いに関連がある事項のため、今後とも各方面からの情報を集めていくこととする。

○協議事項

1. 平成 18 年度事業報告並びに収支決算に関する件

真鍋財務委員長より、平成 18 年度事業報告並びに収支決算書（平成 18 年 4 月 1 日から平成 19 年 3 月 31 日まで）（案）の説明と提案があった。また、手塚監事より監査結果報告があった。

協議の結果、原案のとおり決定した。当期収入は 233,521,037 円、当期支出は 217,308,943 円であり、当期収支額は 16,212,094 円である。前期からの繰越を含め次期繰越額は 62,025,620 円である。

◆平成 18 年度事業報告について：平成 19 年 5 月 22 日に開催された臨時総会で承認された社団法人日本病理学会平成 18 年度事業報告（平成 18 年 4 月 1 日から平成 19 年 3 月 31 日まで）は、以下のとおりである。

(1) 平成 18 年度事業報告

平成 18 年 4 月 1 日から平成 19 年 3 月 31 日まで

I. 学術集会、研究会等の開催

1. 学術集会の開催

(1) 「第 95 回日本病理学会総会」（於東京都・坂本穆彦会長）を開催

(2) 「第 52 回日本病理学会秋期特別総会」（於和歌山市・覚道健一代表世話人）を開催

2. 研究会、講習会等の開催

(1) 「第 4 回日本病理学会カンファレンス（2006 東京）」を実施

(2) 細胞診講習会（於東京都）を実施

(3) 病理診断講習会（於東京都）を実施

(4) 病理技術講習会（於和歌山市）を実施

(5) 各支部会における「学術・研修集会」等を実施

3. 市民公開フォーラム（於和歌山市）を開催

II. 学会誌、学術図書等の発行

1. 「日本病理学会会誌」（第 95 巻第 1～2 号）を発行

2. 「Pathology International」（第 56 巻第 4～12 号、第 57 巻第 1～3 号）を発行

3. 「診断病理」（第 23 巻第 2～4 号、第 24 巻第 1 号）を発行

4. 「日本病理学会会報」（第 219 号～230 号）を発行

5. 「病理専門医部会報」（2006 年第 2～4 号、2007 年第 1 号）を発行

III. 研究および調査

1. 「日本病理剖検輯報」第 47 輯（平成 16 年症例）を発行

2. 剖検輯報編集方法を変更・充実

3. 剖検記録データベースを再構築

IV. 病理専門医等の資格認定

1. 病理専門医・口腔病理専門医の認定・試験（於東京都）を実施

2. 病理専門医を広告

3. 「病理専門医研修手帳」の策定

4. 研修施設を認定

V. 学術団体との協力、連絡

1. 他学会との会議共催および後援（国内）を多数実施

2. 腫瘍取扱い規約の改訂を検討（卵巣腫瘍 脳腫瘍）

3. 海外病理学会との交流

(1) 英国病理学会との会員の相互派遣、学術交流を実施

(2) ドイツ病理学会との学術交流を実施

VI. その他目的を達成するために必要な事業

1. 日本病理学会学術奨励賞を 5 名に授与

2. 海外病理学会への参加支援

3. 若手病理医育成のためのワークショップ（於東京都）を実施

4. 病理診断コンサルテーションシステムを充実

5. インターネットホームページを充実

6. 医師賠償責任保険加入取扱いを実施

7. 病理専門医制度運営、口腔病理専門医制度運営、医療業務等の各種委員会を開催

◆平成 18 年度収支決算報告について：平成 19 年 5 月 22 日に開催された臨時総会で承認された社団法人日本病理学会平成 18 年度収支決算報告は、以下のとおりである。

(2) 平成 18 年度収支決算報告

1) 収支計算書

平成 18 年 4 月 1 日から平成 19 年 3 月 31 日まで

(単位 円)

科目	予算額	決算額	差異
I. 収入の部			
1. 基本財産運用収入	1,000	17,389	16,389
受取利息収入	1,000	17,389	16,389
2. 会費収入	73,280,000	80,080,000	6,800,000
正会員・学術評議員会費	29,000,000	35,198,000	6,198,000
同終身会費	2,000,000	3,600,000	1,600,000
同一般会員会費	30,000,000	26,696,000	△ 3,304,000
学生会員会費	30,000	15,000	△ 15,000
賛助会員会費	350,000	250,000	△ 100,000
機関会員会費	500,000	425,000	△ 75,000
病理専門医部会員会費	11,400,000	13,896,000	2,496,000
3. 事業収入	105,000,000	139,695,619	34,695,619
学術集会収入	65,000,000	93,637,878	28,637,878
論文掲載料収入	3,000,000	947,407	△ 2,052,593
広告料収入	1,500,000	692,700	△ 807,300
刊行物発行収入	14,000,000	16,220,400	2,220,400
専門医制度収入	14,000,000	21,160,500	7,160,500
病理専門医部会収入	4,000,000	4,712,377	712,377
講習会等収入	2,000,000	158,000	△ 1,842,000

賠償責任保険事務費収入	1,500,000	2,166,357	666,357
4. 補助金収入	11,000,000	11,000,000	0
学術振興会科学研究費	10,800,000	10,800,000	0
日本医学会補助金	200,000	200,000	0
5. 繰入金収入	1,910,000	1,870,000	△ 40,000
学術医療基金繰入金収入	1,910,000	1,870,000	△ 40,000
6. 雑収入	705,000	858,029	153,029
受取利息収入	5,000	121,306	116,306
雑収入	700,000	736,723	36,723
当期収入合計 (A)	191,896,000	233,521,037	41,625,037
前期繰越収支差額	40,483,000	45,813,526	5,330,526
収入合計 (B)	232,379,000	279,334,563	46,955,563

(単位 円)

科 目	予算額	決算額	差 異
II. 支出の部			
1. 事業支出	154,450,000	182,058,085	27,608,085
学術集会経費	66,800,000	95,461,453	28,661,453
学会誌発行経費	35,000,000	34,432,008	△ 567,992
会報発行経費	3,300,000	2,817,150	△ 482,850
剖検報刊行経費	17,000,000	14,595,048	△ 2,404,952
専門医制度運営経費	9,300,000	12,672,729	3,372,729
病理専門医部会経費	10,000,000	7,115,968	△ 2,884,032
支部運営経費	3,350,000	5,850,000	2,500,000
学術奨励等経費	3,000,000	5,715,626	2,715,626
講習会等経費	4,200,000	635,450	△ 3,564,550
各種委員会経費	2,500,000	2,762,653	262,653
2. 管理費	32,320,000	30,444,115	△ 1,875,885
人件費	15,700,000	14,511,270	△ 1,188,730
福利厚生費	1,650,000	1,933,976	283,976
交通費	700,000	338,760	△ 361,240
通信運搬費	2,200,000	2,266,505	66,505
会議費	1,500,000	909,643	△ 590,357
印刷費	2,000,000	1,981,249	△ 18,751
備品費	200,000	0	△ 200,000
消耗品費	300,000	385,246	85,246
光熱費	230,000	221,096	△ 8,904
賃借料	2,600,000	2,670,056	70,056
諸会費	950,000	850,000	△ 100,000
補助金	200,000	200,000	0
修繕費	100,000	0	△ 100,000
嘱託料	1,490,000	1,459,500	△ 30,500
租税公課 (消費税等)	2,000,000	2,228,000	228,000
雑費	500,000	488,814	△ 11,186
3. その他	3,300,000	4,806,743	1,506,743
退職給与引当預金支出	1,500,000	1,500,000	0
学術医療基金引当預金	1,800,000	3,306,743	1,506,743
繰入支出他			
4. 予備費	1,000,000	0	△ 1,000,000

当期支出合計 (C)	191,070,000	217,308,943	26,238,943
当期収支差額 (A-C)	826,000	16,212,094	15,386,094
次期繰越収支差額 (B-C)	41,309,000	62,025,620	20,716,620

2) 正味財産増減計算書

平成 18 年 4 月 1 日から平成 19 年 3 月 31 日まで

(単位 円)

科 目	金 額		
I. 増加の部			
1. 資産増加額			
当期収支差額	16,212,094		
退職給与引当預金積立金額	1,500,000		
学術医療基金引当預金積立額	1,425,292		
国際交流基金引当預金積立額	11,451	19,148,837	
2. 負債減少額			
増加額合計			19,148,837
II. 減少の部			
1. 資産減少額			0
2. 負債増加額			
退職給与引当金繰入額	1,500,000	1,500,000	
減少額合計			1,500,000
当期正味財産増加額			17,648,837
前期繰越正味財産額			212,885,151
期末正味財産合計額			230,533,988

3) 貸借対照表

平成 19 年 3 月 31 日現在

(単位 円)

科 目	金 額		
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	95,301,936		
前払金	1,161,810		
立替金	1,270,000		
未収金	1,308,442		
流動資産合計		99,042,188	
2. 固定資産			
基本財産	30,000,000		
その他の固定資産			
特別財産	137,493,411		
保証金	930,000		
退職給与引当預金	12,700,000		
什器備品	84,957		
その他の固定資産合計	151,208,368		
固定資産合計		181,208,368	
資産合計			280,250,556
II. 負債の部			
1. 流動負債			
前受金	21,671,000		
未払金	15,090,835		

預り金	254,733		
流動負債合計		37,016,568	
2. 固定負債			
退職給与引当金	12,700,000		
固定負債合計		12,700,000	
負債合計			49,716,568
III. 正味財産の部			
正味財産			230,533,988
(うち基本金)			(30,000,000)
(うち正味財産当期増加額)			(17,648,837)
負債及び正味財産合計			280,250,556

4) 財産目録

平成 19 年 3 月 31 日現在

(単位 円)

科 目	金 額		
I. 資産の部			
1. 流動資産			
(1) 現金預金			
現金 現金手許有高	166,257		
普通預金 みずほ銀行本郷支店	92,898,153		
普通預金	19,089		
三菱東京 UFJ 銀行本郷支店			
定期預金 みずほ銀行本郷支店	27,137		
郵便振替貯金	2,191,300		
現金預金合計	95,301,936		
(2) 前払金			
家賃	195,300		
総会開催経費等	966,510		
前払金合計	1,161,810		
(3) 未収金			
学会誌発行収入等	1,308,442		
(4) 立替金			
P.I. カラー頁印刷費	1,270,000		
流動資産合計		99,042,188	
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
普通預金	30,000,000		
三菱東京 UFJ 銀行本郷支店			
(2) その他の固定資産			
① 特別財産			
学術医療基金引当預金	117,440,774		
(普通・三菱東京 UFJ 銀行春日支店)			
国際交流基金引当預金	20,052,637		
(普通・りそな銀行本郷支店)			
特別財産合計	137,493,411		
② 保証金	930,000		
③ 退職給与引当預金	12,700,000		
④ 什器備品	84,957		
その他の固定資産合計	151,208,368		
固定資産合計		181,208,368	
資産合計			280,250,556

科 目	金 額		
II. 負債の部			
1. 流動負債			
(1) 前受金			
平成 19 年度会費・部会費等	21,671,000		
(2) 未払金			
英文誌印刷費等	11,548,595		
日病会誌印刷費・発送手数料	2,017,550		
会報印刷費	361,200		
「診断病理」発送費	263,490		
未払消費税	900,000		
未払金合計	15,090,835		
(3) 預り金			
源泉所得税等	254,733		
流動負債合計		37,016,568	
2. 固定負債			
(1) 退職給与引当金	12,700,000		
固定負債合計		12,700,000	
負債合計			49,716,568
正味財産			230,533,988

◆会員数 (平成 19 年度 7 月 31 日現在) :

正会員	3,651 名
(学術評議員	1,569 名)
(一般会員	2,082 名)
学生会員	1 名
名誉会員	257 名
賛助会員	4 名
機関会員	91 名
計	4,004 名

◆役員一覧 (平成 19 年度) :

日本病理学会の役員は、以下のとおりである。

(1) 理事および監事 (任期: 平成 20 年 3 月 31 日まで)

理事長	長村 義之
副理事長・常任理事	岡田 保典
副理事長・理事	深山 正久
常任理事	真鍋 俊明
常任理事	黒田 誠
理 事	青笹 克之
理 事	林 良夫
理 事	樋野 興夫
理 事	井内 康輝
理 事	中島 孝
理 事	中沼 安二
理 事	根本 則道
理 事	小川 勝洋
理 事	坂本 穆彦

理事	笹野 公伸
理事	澤井 高志
理事	居石 克夫
理事	恒吉 正澄
理事	堤 寛
監事	松原 修
監事	手塚 文明

(2) 支部 (任期: 平成 20 年 3 月 31 日まで)

北海道	小川 勝洋
東北	澤井 高志
関東	中島 孝
中部	中沼 安二
近畿	青笹 克之
中国四国	井内 康輝
九州沖縄	居石 克夫

◇各種委員会委員名簿 (平成年度 19 年度):

1. 企画委員会

深山正久(委員長), 岡田保典, 真鍋俊明, 黒田 誠, 坂本
穆彦, 堤 寛, 笹野公伸, 中島 孝, 中沼安二

1-2. 若手医師確保に関する小委員会

大橋健一(委員長), 羽場礼次, 茅野秀一, 鬼島 宏, 北川
昌伸, 長嶋洋治, 笹島ゆう子, 鈴木 貴, 田村浩一, 谷山
清己

2. 広報委員会

坂本穆彦(委員長), 岡田保典, 深山正久, 真鍋俊明, 黒田
誠, 林 良夫, 小川勝洋, 恒吉正澄, 堤 寛, 藤井丈士,
望月 眞, 谷山清己

3. 財務委員会

真鍋俊明(委員長), 岡田保典, 深山正久, 黒田 誠, 深山
正久, 坂本穆彦, 笹野公伸, 恒吉正澄

4. 学術委員会

岡田保典(委員長), 深山正久, 真鍋俊明, 黒田 誠, 青笹
克之, 林 良夫, 樋野興夫, 坂本穆彦, 居石克夫, 高橋雅
英, 立松正衛, 高松哲郎, 内藤 眞, 佐藤昇志, 安井 弥,
当該年春期総会会長(真鍋俊明), 当該年秋期特別総会会長
(植田規史)

4-2. 学術奨励賞選考委員会

樋野興夫(委員長), 青笹克之, 黒田 誠, 中沼安二, 小川
勝洋, 岡田保典, 居石克夫, 恒吉正澄, 堤 寛

5. 研究推進委員会

樋野興夫(委員長), 岡田保典, 深山正久, 北川昌伸, 白井
智之, 高橋雅英, 安井 弥, 加藤光保, 横崎 宏

6. 編集委員会

恒吉正澄(委員長), 岡田保典, 深山正久, 真鍋俊明, 樋野
興夫, 根本則道, 坂本穆彦, 堤 寛, 高橋雅英, 根本則
道, 向井万起男

6-2. Pathol Int 常任刊行委員会

高橋雅英(委員長), 藤本純一郎, 福嶋敬宜, 原田孝之, 廣
瀬隆則, 石田 剛, 城 謙輔, 森永正二郎, 本山梯一, 向
井 清, 中谷行雄, 中里洋一, 野口雅之, 落合淳志, 小田
義直, 岡田保典, 大島孝一, 坂元亨宇, 佐野壽昭, 佐多徹
太郎, 清水道生, 滝澤登一郎, 堤 寛, 都築豊徳, 上田
真喜子, 梅村しのぶ, 横山繁生, 吉野 正

6-3. 剖検情報委員会

根本則道(委員長), 藤原 恵, 市原 周, 楠美嘉晃

7. 病理専門医制度運営委員会

黒田 誠(委員長), 根本則道, 笹野公伸, 堤 寛, 石黒
信吾, 森永正二郎, 森谷卓也, 仁木利郎, 梅村しのぶ, 橋
本 洋, 清水道生, 田村浩一, 向井万起男

7-2. 病理専門医試験委員会

清水道生(委員長), 仁木利郎, 福永真治, 坂元亨宇, 安田
政実, 菅間 博, 森 正也, 内藤善哉

7-3. 病理専門医資格審査委員会

森永正二郎(委員長), 森谷卓也, 安田政実, 石田 剛, 岩
田 純, 都築豊徳

7-4. 病理専門医施設審査委員会

橋本 洋(委員長), 石黒信吾, 長谷川匡, 中村栄男, 中村
眞一, 大倉康男

7-5. 病理診断講習会委員会

清水道生(委員長), 森谷卓也, 横山繁昭, 増田友之, 内藤
善哉, 白石泰三, 寺田信行, 吉野 正, 竹屋元裕

7-6. 「診断病理」編集委員会

向井万起男(委員長), 蛇澤 晶(副), 小松明男(副), 笹
島ゆう子(副), 若林淳一, 江村 巖, 内藤善哉, 白石泰三,
寺田信行, 吉野 正, 横山繁生 (以上支部編集委員)

7-7. 病理専門医部会報編集委員会

清水道生(委員長), 堤 寛(副), 望月 眞(副), 三代
川齊之, 岩間憲行, 梅村しのぶ, 全 陽, 富田裕彦, 藤
原 恵, 小田義直

8. 医療業務委員会

根本則道(委員長), 真鍋俊明, 中島 孝, 澤井高志, 松野
吉宏, 清水道生, 廣川満良, 湊 宏, 大橋健一

8-2. コンサルテーション小委員会

森永正二郎(委員長), 手島伸一, 加藤良平, 松野吉宏, 田
中祐吉

8-3. 社会保険小委員会

稲山嘉明(委員長), 逸見明博, 熊坂利夫, 森 正也, 大倉
康男, 佐々木毅, 横山宗伯
(顧問: 原 正道, 水口國雄)

8-4. 精度管理小委員会

羽場礼次(委員長), 鬼島 宏, 長嶋洋治, 大林千穂, 清水
禎彦, 和田 了, 柳井広之

8-5. 剖検・病理技術小委員会

谷山清己(委員長), 明石 巧, 筑後孝章, 長谷川剛, 万代

- 光一, 仲里 巖, 山城勝重, 柳井広之
- 8-6. 癌取扱い規約小委員会
坂本穆彦 (委員長), 伊藤以知郎, 森永正二郎
- 8-7. 地域病理ネットワーク小委員会
井内康輝 (委員長)
- 8-8. 病理診断体制専門委員会
水口國雄 (委員長), 羽山忠良, 岸川正大, 小松明男, 大橋健一, 嶋田裕之, 田村浩一, 安田政実
9. 口腔病理専門医制度運営委員会
林 良夫 (委員長), 根本則道, 朔 敬, 高田 隆, 山口朗, 井上 孝, 出雲俊之, 豊澤 悟
- 9-2. 口腔病理専門医試験委員会
出雲俊之 (委員長), 朔 敬, 山口 朗, 井上 孝, 豊澤悟
- 9-3. 口腔病理専門医資格審査委員会
朔 敬 (委員長), 高田 隆
10. 教育委員会
堤 寛 (委員長), 青笹克之, 井内康輝, 羽場礼次, 伊藤浩史, 鬼島 宏, 下 正宗, 田村浩一
11. 国際交流委員会
笹野公伸 (委員長), 根本則道, 福永真治, 三上芳喜, 長嶋洋治, 梅村しのぶ, 荒川 敦
12. 支部委員会
小川勝洋 (委員長), 澤井高志, 中島 孝, 中沼安二, 青笹克之, 井内康輝, 居石克夫
13. 倫理委員会
井藤久雄 (委員長), 岡崎悦夫, 武村民子, 堤 寛, 伊藤雅文, 本山悌一, 長嶋洋治, 増井 徹 (外部委員), 中島みち (外部委員), 宇都木伸 (外部委員)
14. リスクマネジメント委員会
井内康輝 (委員長), 野々村昭孝, 長村義之, 坂本穆彦, 児玉安司 (外部委員)
15. 医療関連死関係専門委員会
黒田 誠 (委員長), 深山正久 真鍋俊明, 森 茂郎, 根本則道, 野口雅之, 岡崎悦夫
16. プログラム推進委員会
青笹克之 (委員長), 岡田保典, 深山正久, 黒田 誠, 清水道生, 梅村しのぶ, 村田哲也
- ◇社団法人日本病理学会事務局:
- 住所: 〒 113-0033 文京区本郷 2-40-9
ニュー赤門ビル 4 階
 - TEL: 03-5684-6886
 - FAX: 03-5684-6936
 - E-mail: jsp-admin@umin.ac.jp (事務局)
 - E-mail: pin@blackwellpublishing.com
(Pathology Int. 編集室)
 - ホームページ: <http://jsp.umin.ac.jp/>
 - 郵便振替口座: 口座番号 00130-4-32817
加入者名 日本病理学会